

## 食品安全情報（化学物質） No. 8/ 2021（2021. 04. 14）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部  
(<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

### <注目記事>

#### 【EC】 委員会は新しい食品規則で透明性を支援

#### 【EFSA】 リスク評価における透明性：新たな時代の始まり

2021年3月27日から施行される欧州議会及び理事会が立法した新規則は、最高の透明性をもってリスク評価を行う欧州食品安全機関（EFSA）の能力を強化するとともに、リスク評価のために提出される科学的試験の信頼性と透明性を高めて、EFSAの長期的存続を確実にするものである。

\*ポイント： この通称「透明性規則」は、EUにおけるグリホサートの再認可に関連して、EU市民からの、農薬の承認申請及びリスク評価のために企業から提出された試験結果の情報について透明性に懸念があるとの請願書が引き金となり、2019年6月13日に採択されました。そのため規則では、リスク評価の手続きの各段階において、一般の人々も含めた関係者がこれまで以上に関連情報を入手しやすくする、また情報や意見を交換しやすくするためのルールとともに、機密保持のためのルールが明瞭にされています。透明性規則の施行に合わせて、EFSAでは様々なツールやウェビナーの公開を行っています。

#### 【FDA】 FDAは赤ちゃん和小さい子供向けの食品由来の有害元素への暴露の提言についての行動計画を共有

米国食品医薬品局（FDA）は、赤ちゃんや小さい子供向けの食品由来の有毒元素への暴露を減らすための行動計画「さらにゼロに近づける（Closer to Zero）」を発表した。対象に含める有害元素は、ヒ素、鉛、カドミウム及び水銀である。行動計画は4つの段階からなる反復的なアプローチを導入する：1) 有害元素のアクションレベル設定のための科学的根拠を評価する、2) アクションレベルを提案する、3) 提案されたアクションレベルについて、その達成可能性や実行可能性を含めて関係者の意見を聞く、4) アクションレベルを最終決定する。その後、アクションレベルの導入による暴露低減効果を評価して、調整の要否を検討する。

\*ポイント： 以前にご紹介した米国下院小委員会による指摘を受けて、FDAが具体的な行動計画を発表しました。まずは今年の4月から、鉛のアクションレベルについて3年後の最終決定を目指して作業を開始し、次いで、ヒ素、カドミウム及び水銀のアクションレベルを順に検討していく計画です。

#### 【COT】 ダイオキシンポジションペーパー（2021）

英国毒性委員会（COT）は、2018年に欧州食品安全機関（EFSA）が大幅に削減したダイオキシンの耐容週間摂取量（TWI）に関する科学的根拠とリスク管理への影響をレビューした。COTは、EFSAによるTWIの導出にはかなりの不確実性が存在し、動物とヒトのデータが矛盾している可能性もあると考え、TWIの根拠を再考して独自に設定する必要があるとの結論を出した。

## 目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

### [【WHO】](#)

1. 世界がん研究機関（IARC）

### [【FAO】](#)

1. 原子力技術が農業と食料安全保障を改善している 5 つの方法
2. COVID-19 の前、間、後に健康的食事
3. Codex

### [【EC】](#)

1. 委員会は新しい食品規則で透明性を支援
2. 欧州健康とデジタル政策庁
3. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

### [【EFSA】](#)

1. 残留動物用医薬品：依然としてコンプライアンスは高い
2. 食品中の農薬：最新の数字が発表された
3. リスク評価における透明性：新たな時代の始まり
4. EFSA の 2027 年戦略案のパブリックコメント募集
5. ミツバチコロニーの大きさのバックグラウンド変動の解析
6. 行政ガイダンス
7. 農薬関連
8. 飼料添加物関連

### [【FSA】](#)

1. パンデミックにおける食品報告が公表された
2. 情報更新
3. リコール情報

### [【DEFRA】](#)

1. 意見募集の結果：生分解性、コンポスト可能、バイオベースのプラスチック

### [【COT】](#)

1. ダイオキシシンポジウムペーパー（2021）

### [【ASA】](#)

1. ASA 裁定

### [【ANSES】](#)

1. ビスフェノール B、ヒトと環境への内分泌攪乱物質

### [【FSAI】](#)

1. リコール情報

### [【FDA】](#)

1. 急性非ウイルス性肝炎調査－「リアルウォーター」ブランドのアルカリ水
2. FDA は食品施設登録の固有の施設識別番号要件に対し 2022 年 12 月まで柔軟に延長する
3. FDA は赤ちゃんと小さい子供向けの食品由来の有害元素への暴露の提言についての行動計画を共有
4. FDA は動物用医薬品と食品の主要イニシアチブのパフォーマンス測定ダッシュボードの改良を発表する
5. FDA はヒト用医薬品の重要性に応じた抗菌薬のランク付けの方法を議論するバーチャル公聴会を開催する：動物用抗菌薬のリスク管理ツール
6. 公示
7. リコール情報
8. 警告文書

### [【NIH】](#)

1. ファクトシート更新：ゴールデンシール（ヒドラスチス）
2. Mary Frances Picciano ダイエタリーサプリメント研究演習

#### **[【FTC】](#)**

1. 企業は魚油サプリメントを肝疾患の治療に臨床的に証明されていると虚偽の宣伝をして詐欺的に販売していたことで FTC に罰金を払う

#### **[【CFIA】](#)**

1. 食品安全検査報告
2. チョコレートの白斑点は何？
3. リコール情報

#### **[【FSANZ】](#)**

1. 食品リコール統計

#### **[【香港政府ニュース】](#)**

1. 違反情報

#### **[【MFDS】](#)**

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果
2. 食薬処「輸入漬物白菜及びキムチ安全性」専門家諮問会議
3. 食薬処、HACCP 活性化教育・広報事業の始動
4. 食品安全国、「今月のホットトピック」サービス オープン
5. ソース類製品の原材料含有量を偽り表示した業者摘発
6. 春のハーブ、似た形もあります！！
7. 春季、貝毒に気を付けてください！
8. 化粧品原料として輸入した「アロマオイル」を食品添加物として販売した業者 3 ヶ所摘発
9. 輸入申告確認証、信頼できるブロックチェーン網で共有してください！
10. 食薬処、2020 年食品など輸入動向発表
11. 即席製造食品、自動販売機による販売試験可能
12. 金属性異物検出「食肉含有加工品」回収措置

#### **[【SFA】](#)**

1. 環境、水及び食品の統合された情報とサービスを提供する新たな myENV モバイル用アプリケーションが開始される

#### **[【HSA】](#)**

1. 禁止物質シブトラミンを含む 4 製品が見つかった；1 人が有害影響を受けた

#### **[【その他】](#)**

- ・食品安全関係情報（食品安全委員会）から
- ・ProMED-mail 2 件
- ・EurekAlert 1 件

- 
- 世界保健機関（WHO : World Health Organization） <http://www.who.int/en/>

### 1. 世界がん研究機関（IARC）

#### 欧州 9 カ国の食事からのトランス脂肪酸摂取と乳がんリスク

Dietary intake of trans fatty acids and breast cancer risk in 9 European countries

31 March 2021

<https://www.iarc.who.int/news-events/dietary-intake-of-trans-fatty-acids-and-breast-cancer-risk-in-9-european-countries/>

工業由来トランス脂肪酸、反芻動物由来トランス脂肪酸、エライジン酸、共役リノール酸、パルミトエライジン酸摂取量の多さと乳がんリスクの高さに関連がある。EPIC 研究の結果が *BMC Medicine* に公表された。

\* Dietary intake of trans fatty acids and breast cancer risk in 9 European countries

Matta M, Huybrechts I, Biessy C, Casagrande C, Yammine S, Fournier A, et al.

BMC Med, Published online 30 March 2021;

<https://doi.org/10.1186/s12916-021-01952-3>

---

- 国連食糧農業機関（FAO : Food and Agriculture Organization of the United Nations）

<http://www.fao.org/>

### 1. 原子力技術が農業と食料安全保障を改善している 5 つの方法

Five ways nuclear technology is improving agriculture and food security

30/03/2021

<http://www.fao.org/fao-stories/article/en/c/1390726/>

新しい FAO/IAEA 共同センターが世界を食べさせるための原子力技術をしてこ入れする。

1. 動物の健康 動物の病気の検査
2. 土壌や水管理の改善 放射性同位元素を使って土壌の質を監視
3. 害虫管理 不妊虫放飼法（SIT）
4. 食品安全管理 照射
5. 植物の交配と遺伝学 放射線誘発変異による品種改良

### 2. COVID-19 の前、間、後に健康的食事

Eating healthy before, during and after COVID-19

07/04/2021

<http://www.fao.org/fao-stories/article/en/c/1392499/>

—FAO のリソースはどんな環境であってもあなたが健康でいるための援助をする—

COVID-19 パンデミックは我々が健康でいるためにとれる対応への再注目を促した。たとえば健康的食生活は全体的健康と免疫系にとって中心的役割を果たす。

ここに6つの健康的食習慣を示す

1. いろいろなものを混ぜよう
2. 野菜や果物をたっぷり
3. 豆、全粒穀物、ナッツを摂ろう
4. 脂肪、砂糖、塩は制限
5. 衛生状態を良く
6. 活動的で、水をたくさん飲もう

COVID-19 パンデミックは世界中の人々の日常生活を変え、多くのストレス、病気、痛みを引き起こした。このような困難と変化の中でも、健康的ライフスタイルの維持はさらに重要になっている。

### 3. Codex

#### ● 新しいFAO出版物：食物アレルギー―誰も取り残さない

New FAO publication: Food allergies – Leaving no one behind

29/03/2021

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1391897/>

2021年3月、FAOアジア太平洋地域事務所が「食物アレルギー―誰も取り残さない」を公表した。この本は、地域毎に食物アレルギーを管理することの重要性を説明する。国民にとって何がアレルゲンとなることが多いのか、表示が必要になる食品は何か、許容可能なアレルゲン量はどの程度なのかを知ることが、各国にとって重要なことである。さらに、この問題を国際的に議論することの重要性も強調している。

食品表示に何もかも記載することは現実的ではないため、優先順位付けが極めて重要である。この本では、日本での良い事例と教訓から得られたデータなど、特定の国のケーススタディも紹介している。そして、食品安全担当機関に向けた食物アレルギーを管理するための実践的な勧告も記している。

\*FAO Food safety toolkit booklet 4 - Food allergies – Leaving no one behind

<http://www.fao.org/3/cb2868en/cb2868en.pdf>

<各国の食品安全担当機関向けの勧告>

1. その国の状況に応じて、一般的な食物アレルゲンを定期的にモニターする仕組みを特定又は開発すること
2. 食品ラベルに記載した可能性のある食物アレルゲンが、明瞭で読みやすいものがあるようにし、特にアレルギーの人々に向けて、その読み方を教育すること
3. 顧客に、例えばメニューなどで食物アレルゲンのことを確実に伝えることが出来るように、民間部門、特に食品 e-コマースや飲食店事業者との協力体制を構築又

は強化すること

4. ヒトでの食物アレルギーの検知の強化につながる研究を支援し、診断ツールを開発すること
5. 食品中の食物アレルゲンの検知の強化につながる研究を支援し、診断ツールを開発すること
6. 食物アレルギーについての認識を向上させることを狙った対象者を絞ったキャンペーンを通じて、食物アレルギーについて教育を行うこと
7. 食物アレルギーについて、自国のケーススタディや関連データを提供することにより、コーデックスなどの国際的な議論に貢献すること

● **抗菌剤耐性のサーベイランスとモニタリングには協力がカギ**

Collaboration key to success with surveillance and monitoring on antimicrobial resistance

18/03/2021

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1382111/>

2021年3月16日火曜日、抗菌剤耐性（AMR）に関して、各国がサーベイランスとモニタリングシステムを設け実施する支援としてFAOとWHOが提供するツールやリソースについて学ぼうと500人以上の参加者がオンライン（ウェビナー）に集合した。

コーデックスの親組織（FAO、WHO）と国際獣疫事務局（OIE）による発表では、小規模な活動から国及び世界的な実施活動にわたるサーベイランスのための新たな協力やデータ収集システムに関する詳しい情報が提供された。コーデックスのメンバー国は、現在作成中であるコーデックスガイドラインが柔軟な選択肢を揃えたものとなり、国が必要とするものに的を絞ったものになるよう、ここで提示された情報を反映することを勧められた。

コーデックス事務局のGracia Brisco氏は次のように述べた。「このコーデックスガイドラインが、国や地域の状況に応じて、しかし、コーデックスにより提供される国際的に正式な枠組みの下で、その国のモニタリング及びサーベイランス計画を作成する基礎となることを期待したいと思う。」

AMRサーベイランスの問題に取り組むために3組織（FAO/WHO/OIE）によりTISSA（Tripartite Integrated Surveillance System on AMR and antimicrobial use）作業計画が提示されている。世界レベルでAMRデータを可視化することは誰にとっても挑戦的なことであり、それぞれの組織が異なるやり方でデータ収集を開始する。

● **新しいAMR実施規範の更新を提供するウェビナー**

Webinar to provide update on new AMR Code of Practice

07/04/2021

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/13931>

[51/](#)

2021年4月8日、食品に由来する抗菌剤耐性（AMR）の最小化及び抑制のための実施規範（CAC/RCP 61-2005）の更新作業に関するメンバー国及びオブザーバー向けのウェビナーを開催する。コーデックスでは、抗菌剤耐性に関する特別部会（TFAMR）において更新作業のための電子作業部会 EWG が設置されており、2021年6月に予定している次回 EWG に向けて情報を共有する。

\* Global Action Plan on Antimicrobial Resistance

<https://www.who.int/antimicrobial-resistance/global-action-plan/en/>

● コーデックスの水の使用に関する仕事は世界水の日に価値ある貢献

Codex work on water use a valuable contribution on World Water Day

22/03/2021

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1382779/>

水は世界的に減少しつつある資源である。2021年世界水の日、「水を大切にする」の国連世界水開発報告書 2021 が公表され、農業における水使用の評価の中で「食料生産のための水の多様な価値を最大化する」管理戦略の実施が求められた；効率的な水使用の改善を含め食品の需要やその結果として生じる水使用を減らす；食品のための水使用の知識や理解の改善；すべての食料生産者が安全な水資源を得られるわけではなく、一方安全な水を手に入れる事と排水は、財政的にも環境的にも多大な費用がかかる。

2020年9月、コーデックス総会は、安全な水資源へのガイドラインの策定を新規作業とすることに合意した。リスクベースのアプローチを使用し fit-for-purpose（目的に合っている）の原則の適用によるフードチェーン全体にわたる食品に直接及び間接的に接触する水の使用及び再利用に関するものである。

この新たなガイドラインは、状況に応じたフードチェーンの水使用を考慮し、気候変動の影響や水の再利用やリサイクル水の必要性にも対応するものである。食品事業者にとって実用的なガイダンスやツールは、リスクと利用できる介入を理解するために有効であるだろう。この作業は 2023 年に完了する予定である。

新たなガイダンスは、基本文書の 1 つである「食品衛生の一般原則」の一部となる。この一般原則では食品生産において水が目的にあっていることを保証する必要性を述べる一方、新たなガイドラインは食品事業者が自分達の食品生産の各段階において必要とされる水のタイプを評価する必要性について、より詳細に示すことになるだろう。

---

● 欧州委員会（EC : Food Safety: from the Farm to the Fork）

[https://ec.europa.eu/food/safety\\_en](https://ec.europa.eu/food/safety_en)

## 1. 委員会は新しい食品規則で透明性を支援

Commission backs transparency with new food regulation

[https://ec.europa.eu/newsroom/sante/item-detail.cfm?item\\_id=706282&newsletter\\_id=2031](https://ec.europa.eu/newsroom/sante/item-detail.cfm?item_id=706282&newsletter_id=2031)

2021年3月27日の透明性規則（Transparency Regulation: TR）適用に続き、食品持続可能性&国際関係部長 Nathalie Chaze 氏と食品と飼料の安全性と革新部長 Sabine Juelicher 氏が、この重要な規則を前進させるカギとなる段階について議論する。この規則による食品法や農場から食卓まで戦略への影響、新たな食品技術分野の機会を拓く可能性について、着目している。

いわゆる透明性規則とは何でその目的は？

Nathalie 氏：

一般食品法規則を改定する TR は、EU のリスク評価における透明性について EU 市民から提示された懸念に対応したものである。それはグリホサートを禁止し人々と環境を有害な農薬から守る欧州市民イニシアチブへの直接的対応で、包括的政策評価である一般食品法規則適切性チェックの知見をもとにしている。2018年4月に欧州委員会が提案し欧州議会と理事会で2019年に速やかに採択された。

この新しい規則の目的は単純で：EU のフードチェーンのリスク評価をより透明なものにすることである。同時に EFSA の長期的存続を確実にすることも目指す。

（EFSA の話等略）

次のステップは？

Nathalie 氏：

今後数年で、我々は全ての関係者との公開対話を組み合わせたリスクアナリシスプロセス全体にわたって一貫したリスクコミュニケーション戦略を確実にするための、リスクコミュニケーションに関する一般計画を開発することに注力する。リスクコミュニケーションはリスクアナリシスパラダイムに組み込まれている。それはリスクアナリシスプロセスの全体で、ハザード、リスク、リスクに関連すること、リスク評価者やリスク管理者、消費者、食品や飼料の事業者、学者、その他関係者のリスク認知などについて情報や意見を相互に交換することである。

## 2. 欧州健康とデジタル政策庁

European Health and Digital Executive Agency (HaDEA)

[https://hadea.ec.europa.eu/index\\_en](https://hadea.ec.europa.eu/index_en)

2021年4月1日発足

COVID-19 後の欧州を、よりグリーンに、よりデジタルに、そして将来の課題に対してより回復力のあるものに再構築するのに役立つことを目指す。

（欧州各種計画の財務管理を担当する）

<代表的計画>

- ▶ EU4Health : 予算 51 億ユーロで、EU 諸国、衛生組織、NGOs に資金援助を実施
- ▶ HorizonEurope : 2021-2027 年の欧州研究革新支援 (研究費)
- ▶ 食品 : より安全な食品のためのより良い訓練 (Better Training for Safer Food: BTSF) の取り組みとして、オンライン学習プラットフォーム BTSF アカデミーを開設
- ▶ 欧州の各施設のデジタル系インフラ整備 (無料 Wi-Fi)
- ▶ デジタルヨーロッパ計画 : スーパーコンピューター、人工知能、サイバーセキュリティ、デジタルスキル向上、経済・社会のデジタル技術の利用拡大、等。

### 3. 食品及び飼料に関する緊急警告システム (RASFF)

Rapid Alert System for Food and Feed (RASFF) Portal - online searchable database

[http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff\\_portal\\_database\\_en.htm](http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm)

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

2021 年第 13 週～第 14 週の主な通知内容 (ポータルデータベースから抽出)

\* 基本的に数値の記載がある事例は基準値超過 (例外あり)

\* RASFF へ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

#### 警報通知 (Alert Notifications)

ブラジル産オーストリア経由パパイヤの未承認物質クロロタロニル(1.7 mg/kg)、スペイン産スモークパプリカパウダーのオクラトキシン A (35 µg/kg)、フランス産オランダ経由飼料用グルテンコーンのアフラトキシン(B1 = 0.025 mg/kg)、チェコ共和国産ハーブティーのピロリジンアルカロイド(2928.10 µg/kg)、スペイン産乾燥イチジクのオクラトキシン A(80.2 µg/kg)、イタリア産有機レモンとショウガバーの未承認物質エチレンオキシド(2.0 mg/kg)、スウェーデン産ラトビア経由タバコを含まないニコチンポーチの未承認新規食品成分ニコチン、タイ産オランダ経由ゼリーミニカップの摂取による窒息リスク及びカラギーナン(E407)とコンニャク(E425)未承認、ベルギー産冷凍鶏肉のテトラサイクリン(133 µg/kg)、トルコ産オランダ経由グレープフルーツの未承認物質クロルピリホス(0.119 mg/kg)及びクロルピリホス-メチル(0.021 mg/kg)、オランダ産未承認新規食品クソニンジン (*artemisia annua*)有機チンキ、スペイン産ペッパーのオクラトキシン A (26 µg/kg)、インド産カレー粉のアフラトキシン(B1 = 20; Tot. = 21 µg/kg)、ブラジル産ライムの未承認物質クロルピリホス(0.17 mg/kg)、ベトナム産オランダ経由冷凍マグロロインのヒスタミンが原因の食品由来アウトブレイク(420 mg/kg)、オランダ産有機キビのアトロピン(40.1 µg/kg)及びスコポラミン(29.1 µg/kg)、オランダ産乾燥海藻のヨウ素高含有(466 mg/kg)、トルコ酸スイカ種子のアフラトキシン(B1 = 7.87; Tot. = 8.41 µg/kg)、ペルー産ササゲの未承認物質

クロルピリホス(0.024 mg/kg)、ノルウェー産有機海藻粉末のヨウ素高含有(1040 mg/kg)、インド産有機殻剥きゴマ種子のエチレンオキシド(19 mg/kg)、ポーランド経由インド産ゴマ種子のエチレンオキシド(0.90 mg/kg)、フランス産ゴマ種子スパイスミックスのエチレンオキシドなど。

#### 注意喚起情報 (information for attention)

インド産有機フードサプリメントの未承認物質エチレンオキシド(最大 722 mg/kg)、レバノン産酢漬けの株の亜硫酸塩非表示(574 mg/kg)、スペイン産フランス経由チルドメカジキの水銀(4.27 mg/kg)、ブラジル産ステンレススチール製キッチンナイフからのクロムの溶出(0.21 mg/dm<sup>2</sup>)、ホンジュラス産ナスの未承認物質フィプロニル(0.018 mg/kg)、エジプト産グアバの未承認物質ジメトエート(0.031 mg/kg)、イラン産乾燥メロン種子のアフラトキシン(B1 = 30.8; Tot. = 35.5 µg/kg)、インド産レッドチリパウダーのオクラトキシン A (90 µg/kg)、英国産フードサプリメントのビタミン B6 の高摂取量、モロッコ産スペイン経由白ペッパーのメソミル(0.24 mg/kg)及びクロフェンテジン(0.11 mg/kg)、ギリシャ産チルドヨーロッパヘダイの未承認物質クリスタルバイオレット(1.1 µg/kg)及びロイコクリスタルバイオレット(1.2 µg/kg)、米国産フードサプリメントの未承認物質β-アラニン及び禁止物質ヨヒンビン(873 mg/kg)、トルコ産マルメロのイマザリル(0.269 mg/kg)・未承認物質オメトエート(0.071 mg/kg)及びジメトエート(0.563 mg/kg)、オーストラリア産殻剥きアーモンドのアフラトキシン(B1 = 14.8; Tot. = 16.7 µg/kg)、など。

#### フォローアップ用情報 (information for follow-up)

スロベニア産オランダ経由フードサプリメントの未承認新規食品成分カンナビジオール(CBD)、フランス産セロリ塩に使用されたセロリの未承認物質エチレンオキシド(0.44 mg/kg)、モーリタニア産コシオレガニ(オオエンコウガニ)の亜硫酸塩高含有(134 mg/kg)、オランダ産タンパク質分解酵素の未承認遺伝子組換え微生物の DNA、フランス産そば粉の未承認物質エチレンオキシド(0.3 mg/kg)、オランダ産バスマティ米の未承認物質トリシクラゾール(0.018 mg/kg)、ハンガリー産マスタードオイルのエルカ酸高含有(293.87 g/100g)、ベルギー産家禽用配合飼料の未承認成分(エビと昆虫の PAP)、ベルギー産鳥用補完飼料のカンタキサンチン高含有(15000 mg/kg)、英国産冷凍ヨーロップアカザエビの亜硫酸塩高含有(270 mg/kg)、など。

#### 通関拒否通知 (Border Rejections)

ウガンダ産ペッパーの未承認物質エチレンオキシド(0.97 mg/kg)、トルコ産ペッパーのピリダベン(2.085 mg/kg)、ドミニカ共和国産ペッパーの未承認物質エチレンオキシド(0.33 mg/kg)及びフィプロニル(0.014 mg/kg)、中国産コーティングされたラビオリとバーベキュー風味のピーナッツのアフラトキシン(B1 = 8; Tot. = 9.7 µg/kg)、スリランカ産英国経由有機緑茶の未承認物質アントラキノン(0.15 mg/kg)、ウガンダ産ペッパーの未承認物質クロルピリホス(0.072 mg/kg)及びエチレンオキシド(0.29 mg/kg)、エジプト産ピーナッツのアフラトキシン(B1 = 37.6; Tot. = 45.9 µg/kg)、中国産ウーロン茶の未承認物質クロルピリホス(0.091 mg/kg)・トルフェンピラド(0.068 mg/kg)及びアントラキノン(0.18 mg/kg)、インド

産ペッパーの未承認物質エチレンオキシド(0.34 mg/kg)、香港産緑茶のブプロフェジン(0.18 mg/kg)及び未承認物質クロルピリホス(0.024 mg/kg)、トルコ産乾燥イチジクのアフラトキシン(B1 = 31; Tot. = 34 µg/kg ; B1 = 68; Tot. = 152 µg/kg ; B1 = 15.7; Tot. = 28.0 µg/kg ; B1 = 31; Tot. = 76 µg/kg ; B1 = 41; Tot. = 140 µg/kg)、スリランカ産英国から発送した有機ハーブティーの未承認物質アントラキノン(0.16 mg/kg)、インド産冷凍ケンサキイカ下足のカドミウム(3.6 mg/kg)、トルコ産ペッパーのピリダベン(0.858 mg/kg)、ロシア産未承認炭酸天然ミネラルウォーター、トルコ産有機乾燥刻んだイチジクのアフラトキシン(B1 = 13.84; Tot. = 15.77 µg/kg)、ボスニア・ヘルツェゴビナ産ピーナッツとキャラメルアイスクリームペーストのアフラトキシン(B1 = 3.6; Tot. = 4.3 µg/kg)、中国産プラスチックカップの竹の未承認使用、トルコ産ペッパーの未承認物質クロルピリホス-メチル(0.367 mg/kg)、トルコ産ペッパーのテブフェンピラド(0.394 mg/kg)、トルコ産ペッパーのアセタミプリド(0.652 mg/kg)、トルコ産グレープフルーツの未承認物質クロルピリホス(0.132 mg/kg)、中国産スロバキア経由メラミンと竹繊維製パンケースの竹の未承認使用、ジョージア産ヘーゼルナッツ穀粒のアフラトキシン(B1 = 21.4; Tot. = 118 µg/kg)、米国産トルコから発送したピスタチオのアフラトキシン(Tot. = 103 µg/kg)、エジプト産殻付きピーナッツのアフラトキシン(B1 = 12.9; Tot. = 15.6 µg/kg)、トルコ産ペッパーのピリダベン(1.642 mg/kg)、トルコ産ヘーゼルナッツのアフラトキシン(B1 = 13.2; Tot. = 14.6 µg/kg)、英国産未承認新規食品セラチオペプチダーゼ、イラン産ピスタチオのアフラトキシン(Tot. = 68.1 µg/kg)、トルコ産ペッパーの未承認物質クロルピリホス-メチル(0.169 mg/kg)、トルコ産ペッパーのテブフェンピラド(0.366 mg/kg)、トルコ産ペッパーのピリダベン(1.188 mg/kg)、英国発送の原産国不明ゴマ種子のエチレンオキシド(5 mg/kg)など。

---

● 欧州食品安全機関 (EFSA : European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu/>

1. 残留動物用医薬品：依然としてコンプライアンスは高い

Veterinary drug residues: compliance still high

24 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/news/veterinary-drug-residues-compliance-still-high>

動物と動物由来食品の動物用医薬品の残留物と汚染物質の存在に関するデータは、EFSAの最新の報告書によると、EUが設定した安全な濃度を遵守している割合が高いことを示している。この報告書は2019年に収集したモニタリングデータをまとめている。

28加盟国、アイスランド及びノルウェーにより、全部で671,642サンプルが報告された。最大基準値を超えるサンプルの割合は0.32%だった。この割合は、これまでの10年に報告された0.25%-0.37%の範囲内である。過去2年間と比べると、抗甲状腺薬とステロイド類

の違反はわずかに増加し、ゼラノール類、禁止物質、抗菌薬、抗コクシジウム剤、色素ではわずかに減少した。化学元素（金属を含む）では、違反は2018年より多かったが、2017年より少なかった。

このデータは、食品及び飼料の安全性リスク評価における根拠の透明性、再現性、再利用性を改善するために設定された、EFSAが監修する公開保管所、Knowledge Junctionで得られる。

## ・生きた動物及び動物製品の残留動物用医薬品と他の物質のモニタリング結果に関する2019年の報告書

Report for 2019 on the results from the monitoring of veterinary medicinal product residues and other substances in live animals and animal products

24 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-1997>

(技術的報告書)

抗甲状腺薬の違反は0.58%で、全てチオウラシルであり、その理由はおそらく飼料にアブラナ科植物が豊富に含まれていたことによる。ステロイド類の違反は全てタンパク同化ステロイドであり、ウシ0.51%、ブタ0.45%、家禽類0.18%、ヒツジ及びヤギ5.23%であった。

## 2. 食品中の農薬：最新の数字が発表された

Pesticides in food: latest figures published

7 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/news/pesticides-food-latest-figures-published>

EUの食品中の残留農薬に関する最新の報告書が現在公開されている。

2019年に合計96,302サンプルが分析され、その96.1%は規制値内に収まっている。EU共通管理計画(EUCP)の一環として分析された12,579サンプルでは、98%が規制値内だった。EUCPは12食品から無作為に集めたサンプルを分析した—リンゴ、キャベツ、レタス、モモ、ほうれん草、イチゴ、トマト、オート麦穀粒、大麦穀粒、ワイン(赤と白)、牛乳、豚の脂肪。分析されたこれらのサンプルのうち：

- ・ 6,674 (53%) は、定量可能な量の残留物がないことがわかった。
- ・ 5,664 (45%) は、許容濃度以下の1つ以上の残留物を含んでいた。
- ・ 241 (2%) は、法的最大値を超える残留物を含み、そのうち1%が法的対応につながるものであった。

EUCPは3年周期で同じ食品を取り上げているため、特定の食品における基準超過率の上昇または下降傾向が確認できる。そこで2016年と比較すると、モモ(1.9%から1.5%)、レタス(2.4%から1.8%)、リンゴ(2.7%から2.1%)、トマト(2.6%から1.7%)の超過率が低下した。一方、イチゴ(1.8%から3.3%)、キャベツ(1.1%から1.9%)、ワイン用ブドウ(0.4%

から 0.9%)、豚の脂肪(0.1%から 0.3%)で超過率が上昇した。2016 年には牛乳に超過は見られなかった。

EUCP の結果は、専門家ではない人にもデータへのアクセスを容易にする閲覧可能なチャートとグラフで EFSA のウェブサイトで見ることができる。

EUCP で収集した統一した比較可能なデータと同様に、EFSA の年次報告書には、EU 各加盟国、ノルウェー、アイスランドで行った、各国の管理活動の一環として収集したデータも含まれる。各国管理計画は、残留農薬を含む可能性のある食品、あるいは過去数年間に違反が確認されている食品を対象に、リスクベースで実施されている。これらの計画はリスク管理者に重要な情報を与えるが、EUCP のデータとは異なり、欧州全土の店舗の陳列棚にある食品に推測される残留物濃度についての統計的に代表的な実態を提供するものではない。

EFSA はこの結果の分析の一環で食事リスク評価を実施した。2019 年に分析された食品が消費者の健康上の懸念とはなりそうもないことが示唆された。だが、欧州の管理システムの有効性を上げるために多くの助言が提案され、それにより高水準の消費者保護を確保し続けている。

#### ・ 2019 年食品中の残留農薬に関する EU 報告書 (EUCP)

The 2019 European Union report on pesticide residues in food

EFSA Journal 2021;19(4):6491 7 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6491>

(科学的報告書)

急性リスク評価において、急性参照用量 (ARfD) の超過頻度が高かったのは、クロルピリホス、λ-シハロトリン、ピラクロストロビン、デルタメトリン、テブコナゾール、アセタミプリド。

#### ・ 2019 年に実施された残留農薬分析に関する国別概要報告書

National summary reports on pesticide residue analysis performed in 2019

EFSA Journal 2021;18(4):EN-6487 7 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-6487>

(技術的報告書)

EU 加盟国は EFSA に食品中の残留農薬に関する公的管理結果を提出した。この技術的報告書には、各国当局が自国の残留農薬モニタリングをどのような目的と計画で実施しているか、またその対象の優先順位の付け方や結果の概要がまとめられている。

EU 加盟国、アイスランド、ノルウェーは、EFSA の技術的報告書のスタイルに準じて統一するために見直された文書の書式に従って、対象年の間に行った自国の管理活動の概要を提出している。

### 3. リスク評価における透明性：新たな時代の始まり

Transparency in risk assessment: a new era begins

25 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/news/transparency-risk-assessment-new-era-begins>

EU の食品安全システムにおけるリスク評価者としての EFSA の役割を果たす道筋を転換するために、透明性と持続可能性に関する新たなルールが設定された。

3月27日から適用される欧州議会及び理事会が立法した新規則は、最高の透明性基準に従ってリスク評価を行うための EFSA の能力を強化するとともに、EFSA に提出される科学的試験の信頼性と透明性をも強化し、長期的な持続可能性を確保するために EFSA の運営を強固にする。規則の実行を支持するものとして、EFSA は利害関係者向けに新たなツールや Web ポータル（3月30日開始）を公開している。また、訓練講座やウェビナーも開設している。

透明性規則の導入は、EFSA の利害関係者と欧州化学品庁（ECHA）や加盟国などのパートナーと協力しつつ実行された。

新しい取り決めは新しい執行と申請に適用され、遡って適用されることはない。これは、EFSA の進行中の作業の多くが以前の規則と法律に則って引き続き実行される間、調整期間があることを意味する。

#### 透明性規則とは？

この規則は、農薬に関する欧州市民イニシアチブと、2018年1月に完成した一般食品法規則のレビュー結果に応じて作成された。中でも、新しい規則は：

- ▶ リスク評価の工程の早い段階で、企業が EFSA に提出した科学的試験や情報に市民がアクセスできるようになる。
- ▶ 規制対象製品の承認申請を評価する工程にパブリックコメント募集を組み込む。
- ▶ 認可申請企業がすべての関連情報を提出することを保証するために、特定分野のすべての委託研究の通知を確実に受け取るようにする。
- ▶ EFSA にさらなる研究を入手するよう依頼する選択肢を欧州委員会に提供する。

\*透明性規則：Regulation (EU) 2019/1381 of the European Parliament and of the Council of 20 June 2019 on the transparency and sustainability of the EU risk assessment in the food chain and amending Regulations (EC) No 178/2002, (EC) No 1829/2003, (EC) No 1831/2003, (EC) No 2065/2003, (EC) No 1935/2004, (EC) No 1331/2008, (EC) No 1107/2009, (EU) 2015/2283 and Directive 2001/18/EC

<https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=CELEX:32019R1381>

\*ビデオ講演やウェビナー

<https://www.efsa.europa.eu/en/stakeholders/transparency-regulation-implementation-training-programme>

### 4. EFSA の 2027 年戦略案のパブリックコメント募集

## Draft EFSA Strategy 2027 out for public consultation

6 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/news/draft-efsa-strategy-2027-out-public-consultation>

EFSA は 2027 年戦略案のパブリックコメント募集を開始した。5 月 2 日まで募集している。「EFSA の 2027 年戦略は EFSA にとって重要な節目となる。透明性規則が最近適用され、欧州委員会のグリーンディールや農場から食卓まで戦略のより広い背景に対して、私達は EU の食品安全の土台として役割を果たし続けるなら、組織として適応し、進化しなければならない。」と EFSA 長官 Bernhard Url 氏は述べた。

この戦略案は、卓越性、独立性、開示性、説明責任、協力の 5 つの重要な価値に基づいて構築されており、3 つの高レベルの戦略目標を中心に構成されている。その焦点は、

- ・ 信頼できる科学的助言と農場から食卓までのリスクのコミュニケーションを提供する。
- ・ 将来のリスクアナリシスニーズへの準備を確実にする。
- ・ 人々に力を与え、組織の敏捷性を確保する。

この戦略案は高レベルの実施計画を伴い、EFSA の理事会と緊密に協議して作成され、パブリックコメントからのフィードバックで最終的な文書が形成される。

### 5. ミツバチコロニーの大きさのバックグラウンド変動の解析

Analysis of background variability of honey bee colony size

EFSA Journal 2021;18(3):EN-6518 31 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-6518>

(技術的報告書)

ミツバチの特定保護目的の定義の文脈で、リスク管理者は、どのような必要性がどの程度守られるべきかについての意思決定プロセスで、それらを支援するための科学的なバックグラウンドを提供するよう EFSA に求めた。リスク管理者は、変動性に基づいたコロニーの大きさに関する許容可能な影響の閾値の導出はミツバチに好ましい選択肢だと示した。このアプローチは、農薬評価の際に、許容できる影響の大きさは、農薬に暴露されていないコロニーのバックグラウンド変動の範囲内で設定すべきだと仮定している。この報告書で EFSA は、地理学、天候、養蜂条件の範囲をカバーする 19 の EU 環境シナリオでコロニーの大きさのバックグラウンド変動を評価するために BEEHAVE モデルを使用した。モデルの結果と実験的野外調査の対象群に行われた測定値との比較が行われた。この文書で示されたバックグラウンド変動の解析は、許容可能とされるコロニーの大きさの閾値を決めるリスク管理者を支援するはずである。

### 6. 行政ガイダンス

- プラスチック製の食品と接触する物質に使用する物質の申請書作成のための行政ガイダンス

Administrative guidance for the preparation of applications on substances to be used in

plastic food contact materials

EFSA Journal 2021;18(18):EN-6514 22 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-6514>

- 栄養源とその供給源からの栄養素の生物学的利用能の安全性評価に関するガイダンス (改訂 1)

Guidance on safety evaluation of sources of nutrients and bioavailability of nutrient from the sources (Revision 1)

EFSA Journal 2021;19(3):6552 27 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6552>

- タンパク質加水分解物から製造した乳児用及び/又はフォローアップミルクの評価用書類の準備と提示のための科学的及び技術的ガイダンス(改訂 1)

Scientific and technical guidance for the preparation and presentation of a dossier for evaluation of an infant and/or follow - on formula manufactured from protein hydrolysates (Revision 1)

EFSA Journal 2021;19(19):6556 26 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6556>

- 食物アレルギー及び/又は関連製品の義務表示の適用除外申請の準備と提示に関するガイダンス

Guidance on the preparation and presentation of applications for exemption from mandatory labelling of food allergens and/or products thereof pursuant to Article 21 (2) of Regulation (EU) No 1169/2011

EFSA Journal 2021;19(3):6543 26 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6543>

- 健康強調表示申請の準備と提示のための科学的及び技術的ガイダンス(改訂 3)

Scientific and technical guidance for the preparation and presentation of a health claim application (Revision 3)

EFSA Journal 2021;19(3):6554 26 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6554>

- 第三国由来伝統食品の通知及び認可申請の準備と提出に関するガイダンス

Guidance on the preparation and submission of the notification and application for authorisation of traditional foods from third countries in the context of Regulation (EU) 2015/2283 (Revision 1)1

EFSA Journal 2021;19(3):6557 26 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6557>

- 健康強調表示申請に関する関係者用の一般的な科学的ガイダンス(改訂 1)

General scientific guidance for stakeholders on health claim applications (Revision 1)

EFSA Journal 2021;19(3):6553 26 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6553>

- 特定医療目的食品の科学的及び技術的ガイダンス

Scientific and technical guidance on foods for special medical purposes in the context of Article 3 of Regulation (EU) No 609/20131

EFSA Journal 2021;19(3):6544 26 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6544>

- 新規食品の認可申請の準備と提出に関するガイダンス(改訂 1)

Guidance on the preparation and submission of an application for authorisation of a novel food in the context of Regulation (EU) 2015/22831 (Revision 1)

EFSA Journal 2021;19(3):6555 26 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6555>

## 7. 農薬関連

- 植物保護製品(PPP)の有効成分として使用される際の遷移金属の環境暴露とリスク評価を実施する枠組みに関する PPR パネルの声明

Statement of the PPR Panel on a framework for conducting the environmental exposure and risk assessment for transition metals when used as active substances in plant protection products (PPP)

EFSA Journal 2021;19(3):6498 29 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6498>

欧州委員会は、植物保護製品(PPPs)の有効成分として使用される遷移金属(鉄や銅など)の、環境リスク評価(ERA)の枠組みに関する声明を準備するよう欧州食品安全機関(EFSA)に依頼した。非分解性、必須性、運命と性質に影響を与える特定条件や、その毒性は PPPs の現在のガイダンスに含まれていない可能性のある特有の特徴である。提案されたリスク評価の枠組みは予備段階から始まり、そこで関連する環境区画内の遷移金属に関するモニタリングデータが提供される。暴露計算で考慮されるべき金属の自然のバックグラウンドと人為的残留量が提供される。最初の評価段階はその後、残留物は完全に生物学的に利用可能であると想定して実行される。最初の段階に失敗すると、原則として、詳細な ERA は生物学的利用能の問題を考慮できるが、非平衡条件を考慮する必要がある。不必要な複雑さを避けるために目的に合ったシンプルなモデルを採用すべきである。暴露モデルとシナリオは、水、堆積物及び土壌中の遷移金属の運命と性質(化学種など)に関連する環境プロセスとパラメーターに対処するために、適応される必要がある。すべての進行は現在の EFSA のガイダンス文書に従う必要がある。詳細アプローチが金属を含む PPPs のリスク評価で使用されている場合、登録後のモニタリングと管理された長期研究が実施され評価される必要がある。他の PPPs に同じ遷移金属を利用する、あるいは他の利用は、シンクとして機能する環境区分に蓄積されることになる。一般的に、金属を含む PPPs の将来を予測したリスク評価は、非分解性の問題により、長期ハザード評価には限界があるため、決められた期

間しかカバーできないと考えられている。従って、リスク管理の決定でこれらの側面を考慮し、他の包括的な立法の枠組みの目標を持って ERA を調整するよう助言する。

・植物保護製品(PPP)の有効成分として使用する際の遷移金属のための環境曝露とリスク評価の実施のための枠組みに関する PPR パネルの声明案についてのパブリックコメント募集結果

Outcome of the Public Consultation on the draft statement of the PPR Panel on a framework for conducting the environmental exposure and risk assessment for transition metals when used as active substances in plant protection products (PPP)

EFSA Journal 2021;18(3):EN-6501 29 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-6501>

この報告書では受け取ったコメントとその答えに関する統計資料を提示している。これらのコメントはこの声明を最終化する際に考慮される。

●  $\gamma$ -シハロトリンの野生哺乳類へのリスクに関するリスク評価更新

Updated risk assessment concerning the risk to wild mammals for the active substance gamma - cyhalothrin

EFSA Journal 2021;19(19):6489 23 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6489>

確証データを踏まえた  $\gamma$ -シハロトリンのリスク評価は、提案された  $\gamma$ -シハロトリンの代表的な使用による野生の哺乳類への長期リスクが完全に対処されていないと結論された。意思決定プロセス中にさらに検討した後、欧州委員会は EFSA に野生哺乳類へのリスク評価を更新し、提案された優良農業規範 (GAP) の制限を検討するよう依頼した。野生哺乳類のリスク評価の更新されたピアレビュー結果が提示されている。

8. 飼料添加物関連

● 全ての動物種用エチレンジアミンの亜鉛キレートからなる飼料添加物の安全性と有効性

Safety and efficacy of a feed additive consisting of zinc chelate of ethylenediamine for all animal species (Zinpro Animal Nutrition (Europe), Inc.)

EFSA Journal 2021;19(19):6467 22 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6467>

● 全ての動物種用 *Eremothecium ashbyi* CCTCCM 2019833 株で生産したビタミン B2/リボフラビンからなる飼料添加物の安全性と有効性

Safety and efficacy of the feed additive consisting of Vitamin B2/Riboflavin produced by *Eremothecium ashbyi* CCTCCM 2019833 for all animal species (Hubei Guangji Pharmaceutical Co., Ltd)

EFSA Journal 2021;19(19):6462 22 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6462>

- 全ての動物種用エチレンジアミンのマンガンキレートからなる飼料添加物(Zinpro Animal Nutrition (Europe), Inc.)の安全性と有効性

Safety and efficacy of a feed additive consisting of manganese chelate of ethylenediamine for all animal species (Zinpro Animal Nutrition (Europe), Inc.)

EFSA Journal 2021;19(19):6468 22 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6468>

- 全ての動物種用 *Propionibacterium freudenreichii* ssp. *shermanii* ATCC PTA - 6752 株からなる飼料添加物(Chr. Hansen A/S)の安全性と有効性

Safety and efficacy of a feed additive consisting on *Propionibacterium freudenreichii* ssp. *shermanii* ATCC PTA - 6752 for all animal species (Chr. Hansen A/S)

EFSA Journal 2021;19(19):6470 22 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6470>

- 鶏肥育用ラサロシド A ナトリウムとナイカルバジンからなる飼料添加物(Zoetis Belgium SA)の安全性と有効性

Safety and efficacy of a feed additive consisting of lasalocid A sodium and nicarbazine (Nilablend™ 200G) for chickens for fattening (Zoetis Belgium SA)

EFSA Journal 2021;19(19):6466 22 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6466>

- 全ての動物種用 *Ligilactobacillus animalis* ATCC PTA - 6750 株 (以前は *Lactobacillus animalis*)からなる飼料添加物(Chr. Hansen A/S)の安全性と有効性

Safety and efficacy of a feed additive consisting on *Ligilactobacillus animalis* ATCC PTA - 6750 (formerly *Lactobacillus animalis*) for all animal species (Chr. Hansen A/S)

EFSA Journal 2021;19(19):6469 23 March 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6469>

- 
- 英国 食品基準庁 (FSA : Food Standards Agency) <http://www.food.gov.uk/>

#### 1. パンデミックにおける食品報告が公表された

Food in a Pandemic report published

17 March 2021

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/news/food-in-a-pandemic-report-published>

パンデミックにおける食品報告は、「リニュー・ノーマル：パンデミック中に生まれた新しい食環境が人々の行動や好みにどう影響を与えたかを理解するための COVID 後の生活

に関する人民委員会」の一環として FSA が委託され、Demo が作成した。方法は以下を使用した：

1. 30 名が参加した一連の 4 つの審議型オンラインワークショップ
2. 国民を代表する 10,069 名の英国成人の調査
3. 911 名が参加したオープンアクセス調査
4. ポリスと呼ばれる国民を代表するオンラインの審議型研究方法で、1,006 名の英国の成人回答者

#### パンデミック中の国民の経験に関する重要な知見

##### 1. 食料不足

報告書によると、他の人のために買い物をするといい支援が、自主隔離により引き起こされる新たな形態の食料不足の阻止に役立ったことを示す。また、政府が自分で食料を確保できない人を助ける対策をとることへの要望がある。同時に、人々は給料のよい仕事の保証などの食料不足への予防措置をより支持する傾向がある。ポリスの 3 分の 2 (63%) ほどが「誰も飢えさせないことが政府の責任である」との意見に合意した。

##### 2. 英国の食品供給

パンデミック中は地元での食料の購入や栽培を行う人が多いと報告があり、自給自足への傾向を反映した。この傾向の人の多くはパンデミック後も続けたいと思っている。調査した 78% の人は値段があがっても、世界市場で競争力が落ちて、英国の現在の食品品質の水準を維持することを支持した。82% 程度の人が価格や競争力において同様のトレードオフならば、英国の現在の動物福祉の水準を維持することを支持した。

##### 3. 食事と食習慣

COVID-19 中は家庭での調理が増えた。調査の回答者の 3 分の 1 (32%) の人の食事はより健康的になり、3 分の 1 (33%) の人は不健康なスナック類を多く食べた。ステイホームのような制限や公衆衛生助言が健康的な食事を促進した可能性がある。より料理をし、健康的な食事になった人はこの変化を続けたいと思う傾向があるが、フレックスな働き方の継続のような他の変化次第のようである。

パンデミックにおける食品報告は、エビデンスベースの食品と消費者問題に基づく FSA の最新の研究である。新たな Food and You 2 調査も公表される予定である。

## 2. 情報更新

EU 離脱にともなう変更点などについて。

### ● **カンナビジオール (CBD) ガイダンス**

Cannabidiol (CBD) guidance; 11 March 2021

<https://www.food.gov.uk/business-guidance/cannabidiol-cbd#trade-bodies>

### ● **遺伝子組み換え生物承認ガイダンス**

Genetically modified organisms authorisation guidance; 11 March 2021

<https://www.food.gov.uk/business-guidance/regulated-products/genetically-modified-org>

## [anisms-guidance](#)

- 飼料添加物認可ガイダンス

Feed additives authorisation guidance; 24 March 2021

<https://www.food.gov.uk/business-guidance/regulated-products/feed-additives-guidance#feed-additive-legislation>

- フードサプリメント

Food supplements; 24 March 2021

<https://www.food.gov.uk/business-guidance/food-supplements>

- 包装と表示

Packaging and labelling; 24 March 2021

<https://www.food.gov.uk/business-guidance/packaging-and-labelling>

### 3. リコール情報

- **PepsiCo** は窒息の危険性があるためとして **Smith's Snaps Spicy Tomato Flavour** をリコール措置

PepsiCo recalls Smith's Snaps Spicy Tomato Flavour because of potential choking hazard; 26 March 2021

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/alert/fsa-prin-20-2021>

Smith's Snaps Spicy Tomato Flavour 8×13 g は、いくつかの製品は調理が十分でなく、通常より明らかに硬く、窒息の危険性があり、安全でない可能性がある。製品写真あり。

- (更新) **Nestle UK** は **SMA Wysoy** 乳幼児用調製粉乳は青いプラスチック片の混入のため一部リコール措置

Update: Nestle UK recalls SMA Wysoy Infant Formula because it contains pieces of plastic; 30 March 2021

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/alert/fsa-prin-19-2021-update-1>

Nestlé UK and Ireland は、青いプラスチック片の混入のため米国産 SMA 大豆タンパク質ベースの Wysoy 乳幼児用調製粉乳をリコールしており、対象製品を追加した。製品写真あり。

- **Nutricia** はリンゴの果梗混入の可能性ため **Cow & Gate and Aptamil Muesli 10+ months** 製品をリコール措置

Nutricia recalls Cow & Gate and Aptamil Muesli 10+ months products because they contain pieces of apple stalks; 9 April 2021

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/alert/fsa-prin-03-2021-update-1>

Nutricia 社はリンゴの果梗混入の可能性ため、Cow & Gate and Aptamil Muesli 製品をリコール措置。乳幼児にとって窒息の可能性があり安全でない。

- 
- 英国環境・食料・農村地域省 (DEFRA : Department for Environment, Food and Rural Affairs) <http://www.defra.gov.uk/>

## 1. 意見募集の結果：生分解性、コンポスト可能、バイオベースのプラスチック：根拠要請

Standards for biodegradable, compostable and bio-based plastics: call for evidence

8 April 2021

<https://www.gov.uk/government/consultations/standards-for-biodegradable-compostable-and-bio-based-plastics-call-for-evidence>

2019年7月から10月に行われた意見募集の結果。85の意見が寄せられた。循環型経済に向かうことでプラスチックの廃棄による汚染問題に取り組む。その一つの方法として、今後、オキシ分解性プラスチックの禁止を導入する可能性がある。

### 定義

- ▶ バイオベースのプラスチック：デンプンやセルロースなどの植物由来原料ポリマーで作ったプラスチック
- ▶ 生分解性：水、バイオマス、気体などに分解されるプラスチック。温度や湿度、微生物、酸素などの環境条件による
- ▶ コンポスト可能：生分解性プラスチックの一部で、分解の至適条件は55-70℃、高湿度、有酸素

### 重要な知見

- バイオベースのプラスチックが循環型経済に貢献できるかどうかについて、意見は様々である。
- 生分解性プラスチックについては、従来型のプラスチックが汚染により再利用やリサイクルができない場合には、限定的ではあるが役に立つということで合意がある。ただし、市販された製品が実際に環境中で分解するのかといった強い懸念が繰り返し生じている。
- 生分解しやすいように加工したプラスチックは技術が証明されておらず、マイクロプラスチック汚染源となる可能性が高いという合意がある。
- 表示については「バイオプラスチック」は曖昧で、あまり価値がなく使うべきではない。

- 
- 英国毒性委員会 (COT : Committee on Toxicity of Chemicals in Food, Consumer Products and the Environment)  
<http://www.advisorybodies.doh.gov.uk/cot/index.htm>

## 1. ダイオキシンポジションペーパー (2021)

Dioxin position paper (2021)

March 2021

[https://cot.food.gov.uk/sites/default/files/2021-03/Dioxin%20interim%20position%20statement\\_0.pdf](https://cot.food.gov.uk/sites/default/files/2021-03/Dioxin%20interim%20position%20statement_0.pdf)

食品、消費者製品及び環境中の化学物質の毒性に関する委員会

<ダイオキシンについてのポジションペーパー>

1. COT はダイオキシンの新しい EFSA の耐容週間摂取量 (TWI) の科学的根拠とリスク管理への影響をレビューし、TWI の導出にかなりの不確実性や、動物とヒトのデータ間で矛盾している可能性があると考えた。リスク管理への影響を考えて、COT は、重要な研究の選択の根拠が、発表された EFSA の意見では十分に明確にされておらず、そのことが根拠の強さを評価するのを困難にしていると感じる。これらの懸念により、COT は EFSA の意見を支持できず、根拠の基盤を再考し、独自の耐容摂取量を設定する必要があると考えた。
2. EFSA は新しい TWI 2 pg/TEQ/kg 体重を設定した。これは以前の耐容摂取量の 7 分の 1 で、クリティカルエフェクトとして出生前及び出生後に暴露を受けたロシアの子供研究で確認された精液の質のデータを基にしている。COT はこの研究が 2 番目の研究の知見と矛盾しているように思われることに留意し、ロシアの研究は説得力の弱いデータセットしか提供していないと考えた。EFSA の評価に含まれる実験動物 (齧歯類) での研究は、以前のリスク評価の基礎として用いられたものと同程度の体負荷で発達への影響があることを確認している。だが、COT は EFSA の意見で示された動物のデータには矛盾があり、特に重要な体負荷を評価する試験の選定の根拠は不明瞭だと考えた。COT は 2001 年にその信頼性について特に懸念を提起し、その後 FSA はこれらの懸念に対処するための研究を委託した。その結果、特定の知見を再現できなかったが、同様の体負荷で他の生殖影響は見られた。概して、EFSA の意見で示されたデータは、ヒトはラットよりもダイオキシンへの感受性がより高いことをほのめかしている。だが、これはダイオキシンに関する既存のデータや、ヒトとラットの多環芳香族受容体(AHR)の相対感度に関する知識と矛盾する。これらの不確実性により、COT は新たに設定した TWI や、データベース全体として保守的すぎるように見える TWI の 7 分の 1 の削減に同意しない。COT は食事暴露や、それらを新しい TWI と比較する必要があるかどうかについてコメントできない。
3. 欧州委員会(EC)は、WHO 毒性等価係数 (TEFs) の基礎と値を見直すための国際レベルで進行中の作業により、EFSA の新しい TWI をまだ採択していない。TEFs のレビューや EC の評価最終化は、速くても 2022 年まで期待されない。COT は、懸念影響が AHR を介しておこると前提されていることを注記する。
4. COT は、さらなるダイオキシンのレビューは大規模で時間のかかる作業になると認め

ている。しかし、現在の HBGV（健康影響に基づくガイダンス値）がすぐに減らされたとしても、人々の体負担を減らすには、ダイオキシンの性質により、特にヒト半減期が長いこと、数十年かかるだろう。現在の COT の TDI は、動物実験の最も感受性の高いエンドポイントに基づいており、最も感受性の高い集団グループを守ることを意図し、従って、すべての集団グループや他の感受性の低い影響からも保護するだろう。

5. 従って、ダイオキシンの再評価は必要で今後進めるべき重要な作業である一方で、COT は、その間ダイオキシンに関する既存の助言を変更する必要はないと考える。COT は、現在の TDI 2 pg/kg 体重/日は発育中の男性胎児への影響を防ぎ、このエンドポイントに関するその後の研究で支持されており、WHO-TEF の概念に関する考察とも一致していると考えられる。

\*参考：食品安全情報（化学物質）No. 25/ 2018（2018. 12. 05）

【EFSA】ダイオキシン類と関連の PCBs：耐容摂取量改訂

<https://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2018/foodinfo201825c.pdf>

- 
- 英国広告基準庁（UK ASA: Advertising Standards Authority）

<http://www.asa.org.uk/>

## 1. ASA 裁定

- ASA Ruling on DNAfit Life Sciences Ltd t/a DNAfit

31 March 2021

<https://www.asa.org.uk/rulings/dnafit-life-sciences-ltd-a19-1036458-dnafit-life-sciences-limited.html>

インスタグラムでのお金を払った DNAfit（DNA 検査）宣伝で、「あなたの理想の食事、必要なビタミン、運動への反応の秘密を明らかにする」は誤解を招くものであるとの苦情が寄せられた。DNAfit は SNPs 解析により個人の栄養や運動に助言を提供できるという「ニュートリジェネティクス」の根拠があると主張して 31 の論文を提出した上で、広告を取り下げた。ASA は、根拠は十分でないと判断した。

- ASA Ruling on Kendal Nutricare Ltd t/a Kendamil

07 April 2021

<https://www.asa.org.uk/rulings/kendal-nutricare-ltd-a20-1066341-kendal-nutricare-ltd.html>

乳児用ミルク製造会社のフェイスブックの広告で「唯一の英国産乳児用ミルクの製造企業」「ノーパーム油、ノーGMO、ノー魚油の乳児用ミルクを作っている唯一の英国の会社」、が、乳児用ミルクの宣伝禁止に違反する。また乳児用ミルクとフォローアップミルクを混

乱させる可能性がある。

- ASA Ruling on RR Whisky Ltd

07 April 2021

<https://www.asa.org.uk/rulings/rr-whisky-ltd-a21-1092957-rr-whisky-ltd.html>

ウイスキーの宣伝に登山している人の画像が伴っている。登山中の飲酒は危険で無責任であり広告基準違反

---

- フランス食品・環境・労働衛生安全庁 (ANSES : Agence Nationale de Sécurité Sanitaire de L'alimentation, de L'environnement et du Travail)

<http://www.anses.fr/>

### 1. ビスフェノール B、ヒトと環境への内分泌攪乱物質

Bisphenol B, an endocrine disruptor for humans and the environment

9/03/2021

<https://www.anses.fr/en/content/bisphenol-b-endocrine-disruptor-humans-and-environment>

EU 域外では、ビスフェノール B を、内分泌攪乱の特性が現在広く認識されている物質であるビスフェノール A の代替品として使用する国もある。だが、ビスフェノール B は同様の、あるいはむしろやや強い内分泌攪乱性がある。これらの特性の同定を受けて、ANSES は、ビスフェノール A と同じく、ビスフェノール B を欧州 REACH 規則で高懸念物質と特定するよう提案している。この分類の目的は、欧州大陸でのビスフェノール A の代替品としてのこの物質の産業使用を防止し、消費者製品の輸入業者に 0.1%の閾値を超える濃度については表示することを要求することである。

#### ビスフェノール B、ヒトや環境の内分泌攪乱物質

ANSES はフランス国家内分泌攪乱物質戦略の一環で、ビスフェノール B の内分泌攪乱の可能性を評価した。入手可能な科学的データを基にして、ANSES は、WHO の定義や欧州委員会の 2013 年の助言により、この物質が内分泌攪乱物質として定義されるのに必要なすべてのハザード基準を満たしていることを確立した。つまり：

- ・ 内分泌活性：ビスフェノール B は、エストロゲン（女性ホルモン）の産生を増加させ、エストロゲン受容体を活性化するエストロゲン作用がある。
- ・ 男性の生殖器官系を変えることによる有害影響：毎日の精子産生量の低下；男性の生殖器官の相対的な重量の減少；
- ・ 内分泌活性と上記の有害影響との生物学的にもっともらしい関連性

これらの影響はげっ歯類や魚で観察され、同じ量ですでに内分泌攪乱物質として欧州で確認されたビスフェノール A の影響と同様あるいはわずかに大きいことすらある。ビスフ

フェノールBはヒトの健康に重大な影響があり、環境中の種の安定性を変える可能性がある。さらに、ビスフェノール B の暴露影響は、同様にヒトや環境が暴露される可能性のあるビスフェノールAやSなど、同じ特性を持つ他のビスフェノールと累積される可能性がある。はるかに広範囲に研究されているビスフェノール A との類似性により、ビスフェノール B が男性の生殖や代謝に関してなど他の影響を誘発し、環境中のかなりの数の種に影響を与える可能性が指摘されている。

#### ビスフェノール B によるビスフェノール A の望ましくない代替の防止

ビスフェノール B は現在、多くの国々で、いくつかの用途でビスフェノール A とビスフェノール S の代替品として使用されており、特に米国では特定の食品と接触するコーティングやポリマーに使用される間接的添加物として登録されている。欧州では化学物質としての製造や使用は REACH 規則で登録されていないが、欧州の人々の生体サンプルや中国の環境媒体から見つかった。

ビスフェノール B の内分泌攪乱性は、ANSES がそれを高懸念物質(SVHC)として特定することを提案するには REACH 規則の定義では十分な懸念がある。この同定の目的はビスフェノール A の代替品としてビスフェノール B の使用や製造の開発を防ぐことである。消費者製品の輸入業者にも 0.1%の閾値を超える濃度での存在を表示することが求められる。

ANSES が提案した同定文書は 4 月 23 日まで欧州化学品庁(ECHA)のウェブサイトのパブリックコメント募集で入手可。

このアプローチは、化学構造や影響がビスフェノール A や B と同様の、他のビスフェノールにも拡大される可能性がある。

- ・内分泌攪乱の特性のためビスフェノール B を高懸念物質(SVHC)と同定することについての ANSES の意見

ANSES opinion on the identification of bisphenol B as a substance of very high concern (SVHC) for its endocrine-disrupting properties.

<https://www.anses.fr/fr/system/files/REACH2019SA0221.pdf>

- ・ビスフェノールグループ化合物のハザード評価に関する記事参照

Read our article on assessment of the hazards of bisphenol-group compounds

<https://www.anses.fr/en/content/assessment-hazards-bisphenol-group-compounds>

- ・ビスフェノール A への潜在的な代替案に関する記事参照

Read our article on potential alternatives to bisphenol A

<https://www.anses.fr/en/content/potential-alternatives-bisphenol>

\*参考：食品安全情報（化学物質）No. 23/ 2019（2019. 11. 13）

【ANSES】ビスフェノール A をビスフェノール B に代えるのは避けるように

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2019/foodinfo201923c.pdf>

- 
- アイルランド食品安全局（FSAI : Food Safety Authority of Ireland）

<http://www.fsai.ie/index.asp>

#### 1. リコール情報

- **Dunnes Stores** は重量表示が正しくなく調理方法指示の誤りにより **Irish Turkey Breast Crown with Prime Wings** を一部リコール措置

Recall of a Batch of Dunnes Stores Irish Turkey Breast Crown with Prime Wings Due to Incorrect Weight Declaration which Invalidates Cooking Instructions

1 April 2021

[https://www.fsai.ie/news\\_centre/food\\_alerts/dunnes\\_stores\\_turkey\\_crown.htm](https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/dunnes_stores_turkey_crown.htm)

- 表示されない二酸化硫黄のため **Heera Golden Sultanas** の一部リコール措置

Recall of a Batch of Heera Golden Sultanas Due to Undeclared Sulphur Dioxide

1 April 2021

[https://www.fsai.ie/news\\_centre/food\\_alerts/heera\\_golden\\_sultanas.html](https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/heera_golden_sultanas.html)

- リンゴの果梗混入の可能性ため **Aptamil Baby Muesli** 製品を一部リコール措置

Recall of Certain Batches of Aptamil Baby Muesli Products Due to the Presence of Apple Stalks

Wednesday, 7 April 2021

[https://www.fsai.ie/news\\_centre/food\\_alerts/aptamil\\_baby\\_museli.html](https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/aptamil_baby_museli.html)

- 
- 米国食品医薬品局（FDA : Food and Drug Administration） <http://www.fda.gov/>,

#### 1. 急性非ウイルス性肝炎調査ー「リアルウォーター」ブランドのアルカリ水

Investigation of Acute Non-viral Hepatitis Illnesses – “Real Water” Brand Alkaline Water (March 2021)

03/31/2021

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/investigation-acute-non-viral-hepatitis-illnesses-real-water-brand-alkaline-water-march-2021>

（更新部分のみ）

FDA は CDC とネバダ州南部保健地区とともに、ネバダ州の数多くの「リアルウォーター」関連の急性非ウイルス性肝炎報告を調査している。

FDA は「リアルウォーター」ブランドのアルカリ水がいまだにオンラインの販売業者を介して販売されていることに気づいた。FDA は、消費者が入手できないよう確実にするため、残りの製品の所在を確認しているところである。FDA はリコール製品が販売されてい

ることを確認しているため、引き続きこの状況を注意深く監視し販売業者を追跡する。

加えて、FDA はリアルウォーター社が開始した自主的リコールの有効性を評価するために監査を実施している。2021年3月31日時点で、査察によると、FDAの接触以前に、数多くの流通業者はリコールについてリアルウォーター社から直接通知は受け取らなかったということがわかった。さらに同日時点で、リアルウォーター社がリコール措置の発表にもかかわらず、ソーシャルメディアを介し製品を販売している。

FDAは、販売されている製品について、各地域のFDA消費者苦情コーディネーターに報告するよう勧める。

\* Consumer Complaint Coordinators

<https://www.fda.gov/safety/report-problem-fda/consumer-complaint-coordinators>

\* 食品由来疾患アウトブレイク調査

Investigations of Foodborne Illness Outbreaks

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/investigations-foodborne-illness-outbreaks>

CORE 調査票の急性非ウイルス性肝炎調査のリコール情報更新

## 2. FDA は食品施設登録の固有の施設識別番号要件に対し 2022 年 12 月まで柔軟に延長する

FDA Extends Flexibility for Unique Facility Identifier Requirement for Food Facility Registration through December 2022

March 30, 2021

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-extends-flexibility-unique-facility-identifier-requirement-food-facility-registration-through>

FDA は 2 年毎の更新の食品施設登録の固有の施設識別番号 (UFI) の取得と申請期限を 2022 年 12 月 31 日までさらに延長する。D&B データの DUNS (Universal Numbering System) ナンバーを期間内に取得できない場合のガイダンスは以下を参照のこと。

\* Guidance for Industry: Enforcement Policy for Providing an Acceptable Unique Facility Identifier (UFI) for the 2020 Food Facility Registration Biennial Renewal Period, MARCH 2021

<https://www.fda.gov/regulatory-information/search-fda-guidance-documents/guidance-industry-enforcement-policy-providing-acceptable-unique-facility-identifier-ufi-2020-food>

## 3. FDA は赤ちゃんと小さい子供向けの食品由来の有害元素への暴露の提言についての行動計画を共有

FDA Shares Action Plan for Reducing Exposure to Toxic Elements from Foods for Babies and Young Children

April 8, 2021

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-shares-action-plan-reducing-exposure-toxic-elements-foods-babies-and-young-children>

本日 FDA は、赤ちゃんや小さい子供向けの食品由来の有毒元素への暴露を減らすための行動計画「さらにゼロに近づける (Closer to Zero)」を発表した。

### さらにゼロに近づける：ベビーフードのための行動計画

Closer to Zero: Action Plan for Baby Foods

<https://www.fda.gov/food/metals-and-your-food/closer-zero-action-plan-baby-foods>

対象に含める有害元素は、ヒ素、鉛、カドミウム及び水銀である。FDA は、これまで関係者らとともに意義ある暴露低減化を成してきた。この行動計画は、それらの作業の上に築くものであり、赤ちゃんや小さい子供における有害元素への暴露量を継続的に減らしていくための、科学に基づく反復的なアプローチである。さらなる暴露の低減化のために、次のことを実施する。

- 有害元素への食事暴露量の変化に関する調査と評価を推進する
- 関係者からの情報提供を得ながら、アクションレベルを設定する
- 農産品や製品中の有害元素の濃度をさらに低減させるために、業界による優良実践の採用を促す
- 焦点を絞ったコンプライアンス活動と執行活動を推し進める
- 経時的な濃度変化をモニタリングする

\*アクションレベルとは：食品が、連邦食品医薬品化粧品法の section 402(a)(1)に記された異物混入 (adulterated) であると見なされる可能性のある汚染物質濃度のことである。FDA は、特定の事例で執行措置を行うべきかどうか検討するにあたり、その他の要因や科学的根拠に加えてアクションレベルを考慮する。

FDA は、科学をもとに、透明性を持って、活動的な関係者や一般の人達ともデータや情報を共有できる包括的なプロセスで取り組もうとしている。

#### <FDA のアプローチ>

FDA の行動計画では、次の 4 つの段階からなる反復的なアプローチを導入する。

- ▶ アクションレベルのための科学的根拠を評価する：暴露量の低減化のための継続的な改善のサイクルは、食品の定期検査の既存データ、化学分析法の研究及びデータ、毒性試験、暴露及びリスク評価など、関係する科学的情報を評価することから始まる。関係者や助言委員会との関わり、公開ワークショップ、専門家や関係機関などとの対話を通じて、FDA は必要に応じて特定の有害元素についての暫定参照値 (interim reference levels: IRLs) を設定する予定である。IRL は、FDA が食品を介したある元素への暴露量が特定の健康影響をもたらすのかどうかを判断するのに利用される値である。
- ▶ アクションレベルを提案する：IRLs は、FDA が赤ちゃんや小さい子供がよく食べるべ

ビーフード（例：シリアル、乳児用調製乳、果実・野菜のピューレ）やその他の食品について、ある有害元素のアクションレベルを提案する際に参考となる重要な因子である。

- ▶ 提案されたアクションレベルについて、その達成可能性や実行可能性を含めて関係者の意見を聞く：特定された各食品カテゴリー中の各種有毒元素について、FDA は、提案されたアクションレベルの達成可能性及び実行可能性とタイムフレームを評価するために、ワークショップや学会議の開催や関係機関との対話なども含めた、意見募集のプロセスを通じてデータや情報を集める予定である。
- ▶ アクションレベルを最終決定する：FDA は、アクションレベルを調整して最終決定するために、関係者から得られた情報や、更新された科学研究、定期的モニタリングで得られた情報を利用する予定である。

<行動内容と今後の予定>

アクションレベルが決定した後は、それに対応する業界の取り組み状況を評価し、科学データをもとにアクションレベルをさらに調整すべきか判断するという一連のサイクルを再開する。有害元素ごとにデータの入手可能性や調査の必要性が異なるため、まずは 2018 年に IRL（子供 3 µg/日）が設定されている「鉛」のアクションレベルの提案に向けて作業を開始する。その他の作業も含めた今後の計画予定は次の通り。全ての段階において、モニタリングや暴露評価などの研究と公表は行っていく。

- ▶ 第 1 段階（2021 年 4 月から 2022 年 4 月）：「ヒ素」について IRL 設定に向けたデータ収集などの作業を行う。「鉛」について赤ちゃんと小さい子供が食べる食品カテゴリーのアクションレベルを提案し、その実行可能性などについて関係者の意見を聞く。
- ▶ 第 2 段階（2022 年 4 月から 2024 年 4 月）：「カドミウム」と「水銀」について IRL 設定に向けたデータ収集などの作業を行う。「ヒ素」についてアクションレベルを提案し、関係者の意見を聞く。「鉛」のアクションレベルを最終決定する。
- ▶ 第 3 段階（2024 年 4 月以降）：「鉛」について、新しいデータをレビューし、アクションレベルによる低減効果を評価する。「カドミウム」と「水銀」についてアクションレベルを提案し、関係者の意見を聞く。「ヒ素」のアクションレベルを最終決定する。

\*参考：食品安全情報（化学物質）No. 6/ 2021（2021. 03. 17）

【FDA】FDA の、有害元素を含む食品中化学ハザードについての企業への文書と、FDA の赤ちゃんや小さい子どもの食品の安全性向上のために努力について更新

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202106c.pdf>

#### 4. FDA は動物用医薬品と食品の主要イニシアチブのパフォーマンス測定ダッシュボードの改良を発表する

FDA Announces Improved Performance Measure Dashboards for Animal Drug and Food Key Initiatives

April 06, 2021

<https://www.fda.gov/animal-veterinary/cvm-updates/fda-announces-improved-performance-measure-dashboards-animal-drug-and-food-key-initiatives>

FDA の動物用医薬品センター（CVM）は、本日、ヒトと動物の健康を保護するセンターの使命の達成度に着目した、FDA—TRACK サイトの新しく改良されたパフォーマンス測定ダッシュボードを発表した。このサイトには、動物用食品の安全性、新興技術、動物用医薬品の市販前レビュー、市販後の安全性・有効性・品質に関する業務の進捗状況を含む。

\* FDA-TRACK: Animal and Veterinary

<https://www.fda.gov/about-fda/fda-track-agency-wide-program-performance/fda-track-animal-and-veterinary>

5. FDA はヒト用医薬品の重要性に応じた抗菌薬のランク付けの方法を議論するバーチャル公聴会を開催する：動物用抗菌薬のリスク管理ツール

FDA Holds Virtual Public Meeting to Discuss Potential Approach for Ranking of Antimicrobial Drugs According to Their Importance in Human Medicine: A Risk Management Tool for Antimicrobial Animal Drugs

April 9, 2021

<https://www.fda.gov/animal-veterinary/cvm-updates/fda-holds-virtual-public-meeting-discuss-potential-approach-ranking-antimicrobial-drugs-according>

ヒト用医薬品における重要性に応じた抗菌薬のランク付けの方法：新たな動物用抗菌薬のリスク管理ツールに関する意見を 2021 年 4 月 22 日まで再度募集する。ヒトの深刻な感染症にとって唯一の、あるいは限定された治療法に使われる抗菌薬は重要度が高い。

## 6. 公示

下記の製品は表示されていないシルデナフィル、タダラフィルを含むため購入、使用しないよう消費者に助言する。製品写真は各ウェブサイトを参照。

- Yin-Yang Essence Men Power contains hidden drug ingredients;

3-29-2021

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/public-notification-yin-yang-essence-men-power-contains-hidden-drug-ingredients>

- Furious X 1350 contains hidden drug ingredients

3-29-2021

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/public-notification-furious-x-1350-contains-hidden-drug-ingredients>

- Zing Plus contain hidden drug ingredient

3-29-2021

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/public-notification-zing-plus-contain>

[n-hidden-drug-ingredient](#)

7. リコール情報

- **Antoto-K** は表示されない成分シルデナフィル及びタダラフィルのため **Thumbs Up 7 Red 70K** の全国的な自主的リコールを発表

Antoto-K Issues Voluntary Nationwide Recall of Thumbs Up 7 Red 70K Due to the Presence of Undeclared Sildenafil and Tadalafil

March 26, 2021

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/antoto-k-issues-voluntary-nationwide-recall-thumbs-7-red-70k-due-presence-undeclared-sildenafil-and>

- **Bit & Bet LLC** は表示されない成分シルデナフィル及びタダラフィルのため **Thumbs Up 7 Blue 69K** の全国的な自主的リコールを発表

Bit & Bet LLC Issues Voluntary Nationwide Recall of Thumbs Up 7 Blue 69K Due to Presence of Undeclared Sildenafil and Tadalafil

March 30, 2021

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/bit-bet-llc-issues-voluntary-nationwide-recall-thumbs-7-blue-69k-due-presence-undeclared-sildenafil>

- **Nuri Trading LLC** は表示されない成分シルデナフィル、タダラフィル及びバルデナフィルのため **Shogun-X 7000**、**Thumbs Up 7 (Black) 25K**、**Thumbs Up 7 (White) 11K**、**69MODE Blue 69** の全国的な自主的リコールを発表

Nuri Trading LLC Issues Voluntary Nationwide Recall of Shogun-X 7000, Thumbs Up 7 (Black) 25K, Thumbs Up 7 (White) 11K, 69MODE Blue 69, Due to the Presence of Undeclared Tadalafil, Sildenafil, and/ or Vardenafil

March 31, 2021

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/nuri-trading-llc-issues-voluntary-nationwide-recall-shogun-x-7000-thumbs-7-black-25k-thumbs-7-white>

- **Ummzy LLC** は表示されない成分シルデナフィル、タダラフィル及びバルデナフィルのため、**Thumbs up 7 Red 70K**、**Shogun-X 15000mg** 及び **Krazy Night** の全国的な自主的リコールを発表

Ummzy LLC Issues Voluntary Nationwide Recall of Thumbs up 7 Red 70K, Shogun-X 15000mg, and Krazy Night Due to the Presence of Undeclared Tadalafil Sildenafil & Vardenafil

March 31, 2021

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/ummzy-llc-issues-voluntary-nationwide-recall-thumbs-7-red-70k-shogun-x-15000mg-and-krazy-night-due>

- **NANA Collection LLC** は表示されない医薬品成分タダラフィル及びシルデナフィルのため **PremierZen Platinum 5000** と **Triple SupremeZen Gold 3500** の全国的な自主的

## リコールを発表

NANA Collection LLC Issues Voluntary Nationwide Recall of PremierZen Platinum 5000 & Triple SupremeZen Gold 3500 Due to Presence of Undeclared Drug Tadalafil and Sildenafil

April 01, 2021

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/nana-collection-llc-issues-voluntary-nationwide-recall-premierzen-platinum-5000-triple-supremezen>

- **QMART** は表示されない成分シルデナフィル及びタダラフィルのため **IMPERIAL Gold 2000、PremierZEN Extreme 3000、BURRO en PRIMAVERA 60000** 及び **IMPERIAL Platinum 2000** の全国的な自主的リコールを発表

QMART Issues Voluntary Nationwide Recall of IMPERIAL Gold 2000, PremierZEN Extreme 3000, BURRO en PRIMAVERA 60000 & IMPERIAL Platinum 2000 Due to Presence of Undeclared Sildenafil and/or Tadalafil

April 05, 2021

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/qmart-issues-voluntary-nationwide-recall-imperial-gold-2000-premierzen-extreme-3000-burro-en>

- **Yolo Studio** は表示されない成分タダラフィルのため **PremierZEN Extreme 3000、PremierZEN Black 5000** 及び **Triple SupremeZEN Plus 3500** の全国的な自主的リコールを発表

Yolo Studio Issues Voluntary Nationwide Recall of PremierZEN Extreme 3000, PremierZEN Black 5000, & Triple SupremeZEN Plus 3500 Due to the Presence of Undeclared Tadalafil

April 06, 2021

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/yolo-studio-issues-voluntary-nationwide-recall-premierzen-extreme-3000-premierzen-black-5000-triple>

## 8. 警告文書

- Anna Health, LLC

MARCH 16, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/anna-health-llc-613294-03162021>

未承認新規医薬品、不正表示の問題。フコイダン、ビタミン成分等のダイエタリーサプリメント製品を含む。

- Duoc Thao Tre Xanh, LLC

MARCH 16, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/duoc-thao-tre-xanh-llc-611685-03162021>

未承認新規医薬品、不正表示の問題。パパイヤリーフ抽出物、フコダイン成分を含む。

- Trippo International LLC

MARCH 10, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/trippo-international-llc-612586-03102021>

ダイエタリーサプリメント。製品は無水カフェインを成分に含み、ラベルに記載された指示に従って摂取するとリスクとなる可能性がある。1箱に含まれている量からすると致死的なほどの量でもある。

- IMAD International, LLC

MARCH 29, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/imad-international-llc-613268-03292021>

外国供給業者検証プログラム (FSVP) 違反の問題。

---

- NIH (米国国立衛生研究所) のダイエタリーサプリメント局 (ODS : Office of Dietary Supplements) <http://ods.od.nih.gov/>

1. ファクトシート更新 : ゴールデンシール (ヒドラスチス)

Goldenseal

March 2021

<https://www.nccih.nih.gov/health/goldenseal>

ヒドラスチス (*Hydrastis canadensis* : 別名イエロールート) 情報更新。

乱獲と生息地の減少により、野生ゴールデンシールは入手しにくくなり、現在は米国内で商業用 (ダイエタリーサプリメントとして) に栽培されている。最近の研究でメトホルミンとの相互作用が明らかになったため、「メトホルミンを使用している2型糖尿病患者は使わないように」との文言を太字で更新した。もともと健康効果に科学的根拠は無い。

2. **Mary Frances Picciano** ダイエタリーサプリメント研究演習

Mary Frances Picciano Dietary Supplement Research Practicum

30 Mar 2021

<https://odspracticum.od.nih.gov/>

2021年5月25~27日に、ダイエタリーサプリメントに関する基礎知識について学ぶための、教師、生徒、プラクティショナー向けの2021年研究演習バーチャル会合が行われる。無料、申し込み受付開始。

---

● 米国連邦取引委員会 (FTC : Federal Trade Commission)

<http://www.ftc.gov/index.shtml>

1. 企業は魚油サプリメントを肝疾患の治療に臨床的に証明されていると虚偽の宣伝をして詐欺的に販売していたことで FTC に罰金を払う

Companies Settle FTC Charges that They Deceptively Marketed Fish Oil Supplements with False Claims They Were Clinically Proven to Treat Liver Disease

April 1, 2021

<https://www.ftc.gov/news-events/press-releases/2021/04/companies-settle-ftc-charges-they-deceptively-marketed-fish-oil>

— BASF と DIEM が総額 416,914 ドルを払う —

非アルコール性脂肪肝(NAFLD)の肝臓の脂肪を減らすことが臨床的に証明されていると宣伝していた。製品名は Hepaxa、Hepaxa PD あるいはオメガ 3 脂肪酸のどれか一つを含み、心臓、代謝、肝臓の健康あるいは機能に利益があると宣伝していたもの。

---

● カナダ食品検査庁 (CFIA : Canadian Food Inspection Agency)

<http://www.inspection.gc.ca/english/toce.shtml>

1. 食品安全検査報告

Food safety testing bulletin

2021-04-07

<https://inspection.canada.ca/food-safety-for-industry/food-chemistry-and-microbiology/food-safety-testing-bulletin-and-reports/eng/1453324778043/1453327843364>

● エッセンス/香料、オイル類、菓子類、加工野菜中の食品着色料—2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

Food Colours in Essences/Flavourings, Oils, Sweets and Processed Vegetables – April 1, 2018 to March 31, 2019

<https://inspection.canada.ca/food-safety-for-industry/food-chemistry-and-microbiology/food-safety-testing-bulletin-and-reports/food-colours-in-essences-flavourings/eng/1614983347251/1614983347580>

(ターゲット調査)

この調査で、カナダ市場の国内及び輸入製品の食品着色料の存在に関するさらなるベータスライム調査データが作成された。エッセンス/香料、オイル類、菓子類、加工野菜の合計

399 サンプルが集められ、最大 43 種類の着色料が検査された。人工着色料は検査したサンプルの 218 (55%) で検出されなかった。最大使用量を超える量の着色料がこのサンプルのうち 3 つに検出された。許可されていない食品着色料が 1 サンプルで見つかり、1 サンプルだけに成分表に表示されていない許可された食品着色料/量が含まれていた。過去の調査と比較すると、これらの結果は同等の検出率と遵守率(98.7%)を示している。

この調査で観察された食品着色料の量は、ヘルスカナダの評価により、許容できないほどのヒトの健康上の懸念を引き起こさないと判断され、その結果、この調査によるリコールはなかった。

● トウモロコシ製品、クラッカー、他の穀物製品、パスタ、グルテンフリー製品中の複数のカビ毒類 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

Multi-Mycotoxins in Corn Products, Crackers, Other Grain Products, Pasta and Gluten-Free Products – April 1, 2018 to March 31, 2019

<https://inspection.canada.ca/food-safety-for-industry/food-chemistry-and-microbiology/food-safety-testing-bulletin-and-reports/multi-mycotoxins-in-corn-products/eng/1614980469475/1614980469959>

(ターゲット調査)

この調査の主な目的は、トウモロコシ製品、クラッカー、他の（非主要）穀物製品、パスタ、グルテンフリー製品中のカビ毒の存在と量に関するベースラインデータを拡大することだった。カビ毒は収穫前後に農作物に感染するカビが放出する天然の毒素である。これらのヒトへの健康影響は様々である；健康影響は食品中のカビ毒の種類と量による。カナダが特定の食品に最大基準値を提案しているオクラトキシン A(OTA)を除き、カナダにはこの調査の対象となる製品中のカビ毒の最大基準値がない。

トウモロコシ、パスタ製品、クラッカー、グルテンフリーや他の穀類製品の全 750 サンプルがカビ毒の存在について分析した。カビ毒は 388 サンプル(52%)で検出された。合計 17 種類のカビ毒がこの調査対象の製品から検出された。いずれのサンプルからも、アフラトキシン G2、3-アセチルデオキシニバレノール(3-Ac-DON)、15-アセチルデオキシニバレノール(15-Ac-DON)、ネオソラニオール(NEO)、ジアセトキシシルペノール(DAS)、フサノレン-X (FUS-X)、 $\alpha$ -ゼラノール、 $\beta$ -ゼラノールは検出されなかった。最もよく検出されたカビ毒は、全部で 206 サンプル(41%)のデオキシニバレノール(DON)だった。

全結果がヘルスカナダの化学安全事務局(BCS)で評価され、この調査で検出された濃度はヒトの健康上の懸念をもたらすことは推測されないと結論した。ヒトの健康上の懸念がないことを考えて、製品のリコールは必要なかった。

## 2. チョコレートの白点は何？

What are those white spots on your chocolate?

2021-04-06

<https://inspection.canada.ca/chronicle-360/food-safety/what-are-those-white-spots-on-your-chocolate-eng/1617285194201/1617285194514>

<チョコレートの「ブルーム」と呼ばれる白いコーティングとパインマウスについて>

チョコレートが高温で加熱されると、中のカカオバターが溶けて分離し、それが表面で白いコーティングとなる。また、湿度が過剰になると、チョコレートに含まれる糖が結晶化して白点になる。これらの現象は低温で乾燥したところで保存することで防止できる。

チョコレートに松の実が含まれていると、ごく希にパインマウスを経験するかもしれない。パインマウスは特定の松の実 (*Pinus Armandii*) に関連があるとされ、食べると数日から最大 2 週間も金属味が続くことがある。望ましいことではないが、アレルギー反応ではなく、健康リスクもない。

### 3. リコール情報

- 更新 : **Earth Notions** ブランドの **Raw Bitter Apricot Kernels** 製品の消費はシアン化物中毒を引き起こす可能性がある

Updated Food Recall Warning - Consumption of Earth Notions brand Raw Bitter Apricot Kernels may cause cyanide poisoning

March 30, 2021

<https://inspection.canada.ca/food-recall-warnings-and-allergy-alerts/2021-03-30/eng/1617148889143/1617148889627>

- 更新 : ある種の **Apricot Kernels** 製品の消費はシアン化物中毒を引き起こす可能性がある

Updated Food Recall Warning - Consumption of certain apricot kernel products may cause cyanide poisoning

April 2, 2021

<https://inspection.canada.ca/food-recall-warnings-and-allergy-alerts/2021-04-01/eng/1617331972520/1617331978475>

<https://inspection.canada.ca/food-recall-warnings-and-allergy-alerts/2021-04-02/eng/1617393798111/1617393803919>

- 更新 : **Chen-Chen** ブランドの **Dried Apricot North Almond Seeds** はシアン化物中毒を引き起こす可能性がある

Consumption of Chen-Chen brand Dried Apricot North Almond Seeds may cause cyanide poisoning

April 6, 2021

<https://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/inspection/2021/75319r-eng.php>

- オーストラリア・ニュージーランド食品基準局  
(FSANZ : Food Standards Australia New Zealand)

<http://www.foodstandards.gov.au/>

## 1. 食品リコール統計

Food recall statistics

<https://www.foodstandards.gov.au/industry/foodrecalls/recallstats/Pages/default.aspx>

(オーストラリアのみ)

2011-2020年の10年間の食品リコールに関する集計結果を報告。報告件数は徐々に増加していて、2020年は年間109件。最も多い原因は未表示アレルギー（多い順に、乳、複数アレルギー、ピーナッツ、木の実、小麦/グルテン、卵、大豆など）であり、次いで微生物汚染（多い順にリステリア、サルモネラ、E.coliなど）、異物混入（多い順に、金属、プラスチック、ガラスなど）。

- 
- 香港政府ニュース

<http://www.news.gov.hk/en/index.shtml>

Centre for Food Safety of Food and Environmental Hygiene Department, The Government of the Hong Kong Special Administrative Region の承諾を得て掲載していません。

## 1. 違反情報

- 包装ガムのサンプルが食品医薬品規則に違反

Prepackaged Gum sample not in compliance with Food and Drugs (Composition and Labelling) Regulations

Thursday, April 1, 2021

[https://www.cfs.gov.hk/english/unsat\\_samples/20210401\\_8592.html](https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20210401_8592.html)

アップルライム味のガムから表示にない抗酸化物質ブチル化ヒドロキシアニソール (BHA) 15 ppm が検出された。ただし、濃度は基準値 (400 ppm) 未満。

- チョコビスケットが栄養表示規則に違反

Choco Biscuit not in compliance with nutrition label rules

Thursday, April 1, 2021

[https://www.cfs.gov.hk/english/unsat\\_samples/20210401\\_8591.html](https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20210401_8591.html)

韓国産チョコビスケットがタンパク質 1 g/8.5 g (12 g/100 g) という表示のところ、7.6

g/100 g の検出であった。

---

● 韓国食品医薬品安全処 (MFDS : Ministry of Food and Drug Safety)

<http://www.mfds.go.kr/index.do>

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果

輸入検査管理課

2021.3.12～2021.3.18

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_100/view.do?seq=43194](https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43194)

2021.3.5～2021.3.11

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_100/view.do?seq=43192](https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43192)

2. 食薬処「輸入漬物白菜及びキムチ安全性」専門家諮問会議

輸入食品政策課 2021-03-19

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45155](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45155)

食品医薬品安全処は、「輸入漬物白菜及びキムチ安全性の有無」確認などのために、消費者団体、学界、業界などが参加した専門家諮問会議を 3 月 18 日に開催した。

今回の会議は、外国で白菜を非衛生的に漬ける動画が社会的問題になったことにより、該当漬物白菜の国内輸入の可能性、輸入漬物白菜及びキムチの安全性検査などに対する専門家意見を取りまとめるため開催された。

※ (参席者) 消費者団体、学界 (大学教授)、世界キムチ研究所、食品産業協会など 10 人

会議に参加した専門家たちは、最近報道された漬物白菜動画に対して、“2020 年 6 月中国オンラインコミュニティに上がっていた過去映像で、中国政府もこのような漬物方式を 2019 年から全面禁止しており、現在韓国で消費されるキムチとは直接的な関連性は低いと見られる”として、「私たちが一般的に摂取するキムチ製造には使われない」という点で同意した。

世界キムチ研究所責任研究員は、“動画の漬物方法は、白菜の色が変化して組織がもろくなるなど物性が変化しており、私たちが一般的に食べる白菜キムチを製造する材料としては使えない。韓国キムチは、塩と適正水準の水 (浸らない) で白菜を塩漬けにしているが、映像では多すぎる水に浸漬して白菜の水分を全て抜くような製造方法で、韓国伝統的なキムチ製造方式では見られない”と話した。

大邱大学教授は、“一度異色異臭が発生した漬物白菜は、いくら洗っても消えないため、通関段階の官能検査 (製品性質・状態、味、色など) で十分に遮断可能だが、物理的・化学的・微生物学的に汚染状態などを確認する精密検査\*を追加で進めて徹底して管理している”と強調した。

\* (漬物白菜) 食中毒菌、大腸菌、タール色素、保存料

2016年から2019年まで現地実態調査を直接行ってきた韓国食品安全管理認証院大邱支院長は、“韓国に輸出される白菜キムチの漬物工程は全部室内である”と付け加えた。

食薬処は、今後も消費者が安心して輸入食品を購入できるように、多様な専門性と経験を備えた専門家たちの意見を持続的に反映して輸入食品安全政策を遂行していく。

参考で、食薬処は、去る3月12日から輸入通関段階で現場検査（官能、表示）および精密検査（保存料、食中毒菌検査など）を強化して、国民の食品安全管理に最善を尽くしていると説明した。

### 3. 食薬処、HACCP 活性化教育・広報事業の始動

食品安全認証課 2021-03-18

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45153](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45153)

食品医薬品安全処は、食品安全管理認証（HACCP）、以下「HACCP」に対する対国民政策体感度を高めるための「HACCP 活性化教育・広報」実施に先立ち、教育・広報事業に参加する消費者団体との懇談会を開催する。

今回の教育・広報事業は、HACCP 義務適用対象業者が拡大するにつれ、HACCP に対する国民の理解を高めて、HACCP 認証製品を積極的自主的に選択・購入する助けになるように今年8月まで推進し、消費者団体であるグリーン消費者連帯全国連合会、韓国 YMCA 全国連盟、韓国婦人会総本部と連携して進行される。グリーン消費者連帯全国連合会と韓国 YMCA 全国連盟は、それぞれ小・中・高校生たちが HACCP 制度と認証製品を購入する要領を簡単に理解できるように、体験活動と視聴覚教育を進めている。韓国婦人会総本部は、全国大型マートを中心に食品売場を利用する一般消費者に HACCP に対する理解度を増進させて、認証製品購入を誘導できるように現場キャンペーンを実施する計画である。

これと関連して食薬処は、3月18日、HACCP 活性化教育・広報関連消費者団体の意見を取りまとめるために懇談会を開催する。この日の懇談会は、消費者の立場で HACCP 制度が進まなければならない方向と、HACCP 教育・広報事業に対する消費者接点を拡大するのに必要な多様な現場の声を聞く。

食薬処は、今回の HACCP 活性化教育・広報を消費者団体と連携して進めることによって、HACCP に対する対国民理解度を高めて HACCP 認証製品選択・購入の活性化の助けになると発表した。

### 4. 食品安全国、「今月のホットトピック」サービス オープン

統合食品データ企画課 2021-03-17

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45147](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45147)

食品医薬品安全処は、COVID-19 以後、オンライン食品注文及び「ひとりご飯」増加など食品全般に対する関心が高まるにつれ、時期別に国民の関心が高かった食品安全国コンテンツを選別して推薦する「今月のホットトピック」サービスを新しくリリースする。

「今月のホットトピック」は、最近 3 年間 500 余りのコンテンツに対するビッグデータ分析に基づいて、該当時期に訪問者が最も多く関心を持ったテーマに関するコンテンツを一度に集めて見せるサービスで、食品安全初期画面に新設した。3 月は「春季アレルギー」がテーマで、アレルギーを起こす食品の代替食品、アレルギー表示制度、FAQ などを紹介していて、内容を問い合わせれば該当サービスに移動して詳細な内容を確認できる。

## 5. ソース類製品の原材料含有量を偽り表示した業者摘発

食品安全現場調査 TF/釜山地方 FDA 食品安全管理課 2021-03-16

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45143](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45143)

食品医薬品安全処は、ソース類の特定原材料を実際より多く入れたように含有量を偽り表示した食品製造・加工メーカーを摘発して、「食品衛生法」と「食品などの表示・広告に関する法律」に違反した疑惑で行政処分および捜査依頼した。

該当業者は、ライムジュース含有量 54%を 70%含有と表示するなど 28 製品で偽り表示し、519 トン約 55 億相当を販売した事実などで摘発された。該当業者は、この他に食品製造・加工施設でラベンダー香料など 11 種の工業用香料を製造して香料業者 2 ヶ所に販売し、品目製造報告変更未報告 (87 個)、原料受け払い関係書類偽造、賞味期限経過製品保管、衛生的取り扱い基準違反など、合計 7 種類の違反事実が確認された。

## 6. 春のハーブ、似た形もあります！！

農水産物安全政策課 2021-03-15

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45142](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45142)

食品医薬品安全処は、毎年、春のハーブと類似の毒草を間違えて採取・摂取して発生する食中毒が減らないでいるとし、春のハーブの採取および摂取に格別な注意が必要だと案内する。

過去 10 年間、毒草を山菜と誤認・摂取して発生した安全事故は合計 25 件 (86 人) で、この中には死亡事例 (3 人) まであり、事故は主に春季である 2 月から 5 月に多い。春に毒草による食中毒がしばしば発生する理由は、春は花が咲く前で、春のハーブと毒草を区別することが容易でないためである。

春のハーブと誤認・混同する代表的な毒草と、その区別法などは次のとおり。

主に、「ミョンイナムル」と呼ばれニンニク臭がある「ギョウジャニンニク」は、「バイケイソウ」という毒草と誤認・混同しやすいが、「ギョウジャニンニク」はニンニク臭が強く、一筋に 2~3 枚の葉がかかっている反面、「バイケイソウ」は葉が複数ぎっしりと交互に出ていてシワに明確な特徴がある。

ほろ苦い味が特徴である「オタカラコウ」は、「リュウキンカ」という毒草と誤認・混同しやすいが、「オタカラコウ」は香りが良くて葉の終わりがとがっている一方、「リュウキンカ」は香りがなく葉の終わりが丸みを帯びて鈍い形態をしている。

噛むと味が淡くて独特の香りが漂う「ヤブレガサ」は、「クルマバツクバネソウ」という

毒草と誤認・混同しやすいが、「ヤブレガサ」は葉の端が深く 2 列に分かれる反面、「クルマバツクバネソウ」は端が分かれていなくて葉 6~8 枚が輪生する特徴がある。

春のハーブは食べることができても基本的に少量の毒成分を含み、十分な知識なしで野生植物をむやみに採取・摂取するのは危険な行動なので注意が必要である。春のハーブ採取時、▲経験がない人は春のハーブの区分が容易ではないので、できるだけ採取せずに、▲採取する時は春のハーブに対する知識を事前に十分に得るべきで、▲それでも春のハーブなのか確実にない場合は採取してはならない。また、よく食べるワラビ、タラの芽、ナズナ等も必ず沸騰したお湯で十分に茹でて食べるべきで、主に生で食べるミツバ、ツルマンネングサ、ニガナなども水に浸けて流水で 3 回以上洗浄して、食中毒菌および残留農薬など有害成分を除去しなければならない。もし春のハーブ摂取後、麻痺、腹痛など異常症状が現れた場合、必ず病院を訪問するべきで、この時、残った毒草と一緒に持っていくと治療に役に立つ。

食薬処は、「一般人は春のハーブと毒草を区分するのが容易でないので、通りがかりに見ても採取しないことが最も良い方法」としながら「専門家が採取した春のハーブを摂取することが毒草による食中毒を予防できる最も良い方法」と強調した。

(写真およびポスター掲載)

## 7. 春季、貝毒に気を付けてください！

農水産物安全政策課 2021-03-15

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45140](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45140)

食品医薬品安全処は、最近気候変動のため貝毒の検出時期が早まっていて、3月から6月まで、カキ、イガイなどの貝類とマボヤ、エボヤ（茎のあるホヤ）などに対する採取及び流通、摂取に注意を呼び掛けた。

貝毒は、海に棲息する有毒性プランクトン (*Alexandrium tamarense* など) を餌にする貝類の体内に蓄積される毒素で、人が摂取すると中毒症状を起こす危険がある。毎年 3 月から南海沿岸を中心に発生し始め、次第に東・西海岸に広がって、海水温度が 15~17℃ のとき最高値となり、18℃以上に上昇する 6 月中旬頃からは自然消滅する。中毒症状により、麻痺性、下痢性、記憶喪失性貝毒などがあり、韓国でしばしば発生するのは麻痺性貝毒で、貝類摂取後に神経麻痺や消化器異常など疑い症状が現れたら、直ちに近隣病院や保健所を訪問して診療を受けなければならない。

食薬処は 17 の地方自治体とともに、国内に流通する貝類等に対して回収検査を実施(21.2.16~6.30)した。

\* 検査項目及び基準：麻痺性貝毒 0.8 mg/kg 以下、下痢性貝毒 0.16 mg/kg 以下、記憶喪失性貝毒 20 mg/kg 以下

政府は、貝毒は海水温度が上昇する春季に主に発生して、冷蔵・冷凍や、加熱・調理しても破壊されないため、春季に海辺でカキ、イガイなど貝類を個人で採取して摂取することがないように注意を呼びかけた。参考として、政府は消費者が安全な水産物を購入でき

るように、海域別貝毒発生現況と品目別検査結果など関連情報を食品安全国などホームページで提供している。

(写真、図、FAQあり)

## 8. 化粧品原料として輸入した「アロマオイル」を食品添加物として販売した業者 3 ヶ所 摘発

食品安全現場調査 TF 2021-03-12

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45136](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45136)

食品医薬品安全処は、化粧品原料として輸入した「アロマオイル (インド)」を、食品添加物として販売した業者 3 ヶ所を「食品衛生法」、「食品など表示・広告に関する法律」違反疑惑で摘発して、該当製品に対する緊急回収命令、行政処分および捜査依頼した。

調査の結果、食品小分業 A 業者は、過去 '19 年、インドで化粧品原料である「アロマオイル」等 5 種 (102 kg) を輸入して、'20 年 6 月頃から 15 mL 単位に小分した後、飲む食品添加物のように「アロマウォーターレモン」などと表示して 1,030 本 (15 kg、15 mL/ボトル) を製造し、化粧品製造業 B 業者は、通常輸入された食品添加物「ローズオイル」など 6 種を、A 業者から供給され営業申告(食品小分業)しないで 15 mL 単位で小分した後、飲む食品添加物のように「アロマウォーターレモン」などと表示して 1,200 本 (18 kg、15 mL/ボトル) を、再び A 業者に納品していた。A 業者は不法製造された「アロマウォーターレモン」など 11 種合計 2,230 本 (33 kg、15 mL/ボトル、7,500 万ウォン相当)を、全国支社及び代理店 11 ヶ所を通じてマッサージ店に販売した(飲用水に薄めて摂取する用途)。また、通信販売業 C 業者は、A 業者が運営する代理店等を通して該当製品を購入して、インターネットショッピングモールに掲示して「ミネラルウォーターに 2~3 滴を添加して飲む食品添加物」に、「女性更年期、閉経期、憂鬱感、高血圧など病気治療に効果があるように虚偽広告を出し、食薬処は直ちに該当サイトを遮断措置した。

食薬処は、A 業者と C 業者が保管中である「アロマウォーターレモン」など 11 製品 236 本 (3.5 kg、15 mL/ボトル) を現場で差し押さえ、管轄官庁に回収するように措置し、該当製品を購入した消費者は、販売または購入先に返品することを依頼した。

## 9. 輸入申告確認証、信頼できるブロックチェーン網で共有してください！

知能型輸入食品統合システム構築 TF チーム 2021-03-12

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45134](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45134)

食品医薬品安全処は、業者間の輸入食品取引時に正常輸入の有無を確認する目的でやりとりする輸入申告確認証 (写本) を、ブロックチェーン技術を利用して輸入食品情報床 (impfood.mfds.go.kr) で共有するサービスを提供する。

※ (輸入申告確認証) 韓国に輸入される食品に対し、食薬処輸入申告検査を完了 (適合) したときに発行する証明書

(ブロックチェーン技術) 取引または、文書データを入れた情報の「ブロック」を暗号化

して相互に接続（「チェーン」）及び分散保存することによって、偽造・変造が不可能な情報技術

今回のサービスは、輸入食品販売業者が「輸入申告確認証」に通常の輸入製品であることを証明して、取引業者と「輸入申告確認証」写本を共有する場合、手軽で便利に利用できる。

（輸入業者）輸入食品販売業者は、製品の重量、価格など重要情報\*を輸入申告確認証に必要な応じて記載でき、取引業者を指定したり、または、メールを送って輸入食品情報を閲覧することができる。

\* 輸入申告確認証上の総数量、純重量(kg)、課税価格(\$)、検査の種類、BL 番号、関税品目分類コードなど

（取引業者）輸入申告確認証の共有を受けて該当情報を輸入食品情報床で閲覧・出力でき、輸入食品情報床会員である場合、他の業者にも再び共有できる。

輸入食品取引業者は、偽証明書の有無を心配する必要なく、通常の手順を経て輸入された製品であることを食薬処情報システムを通じて確認するので、輸入食品の信頼性が高まる。

## 10. 食薬処、2020年食品など輸入動向発表

輸入検査管理課 2021-03-12

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45133](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45133)

食品医薬品安全処は、去年、輸入食品が 166 ヶ国から約 273 億ドル（韓貨約 32 兆 3 千億ウォン）\*、1,833 万トンが輸入されたと発表した。

\* 年平均為替レート\$=1,180.11 ウォン

‘19年対比昨年輸入金額は 0.5%（‘19年 275 億ドル）、重量は 0.6%（‘19年 1,844 万トン）小幅減少したが、輸入金額の場合、‘19年対比畜・水産物の輸入金額は減少したものの、健康機能食品及び器具・容器・包装は大幅に増加した。これは、COVID-19 長期化により健康に対する関心が増加した反面、外食の減少やデリバリー増加など生活スタイルが変化したためと分析される。

昨年、加工食品などは合計 166 ヶ国から輸入され、国別輸入金額と重量を分析してみると、全て米国が最も多かった。輸入金額は、米国が 62 億 4,607 万ドルで最も高く、中国（46 億 9,763 万ドル）、オーストラリア（22 億 9,410 万ドル）、ベトナム（12 億 7,395 万ドル）、ロシア（9 億 5,493 万ドル）の順であり、これら 5 ヶ国輸入金額が全体輸入金額の 56.6% を占めた。輸入重量の場合、米国が 419 万トンで最も多く、中国（300 万トン）、オーストラリア（259 万トン）、ブラジル（126 万トン）、ベトナム（61 万トン）の順であり、これら 5 ヶ国輸入量が全体輸入量の 63.5% を占めた。

昨年に輸入された品目は約 1,859 個であり、輸入金額では、牛肉、豚肉、精製・加工用原料\*が、輸入重量では、小麦、精製・加工用原料\*、トウモロコシが最も多く輸入された。

\* アルコールや原糖など、精製、加工を経て食品として使用できる原料

昨年1万トン以上輸入された品目のうち、'19年対比増加率が最も高い品目は「パーム油」で前年対比1,097.1%増加し、冷凍イワシ(824.4%)、キャベツ(117.9%)、D-ソルビトール(112.3%)、その他水産物加工品(105.0%)の順であった。増加率1位であるパーム油はラーメンの国内需要および海外輸出増加のためと分析され、2位である冷凍イワシは第3国輸出のための外貨獲得用原料の増加で、3位であるキャベツは'20年気象悪化にともなう国内作物状況不振で価格が上昇して輸入量が急増したと分析された。

主要3ヶ国(米国、中国、日本)の輸入量は、'19年対比米国(482万トン→419万トン)は13.1%、中国(301万トン→300万トン)は0.2%、日本(14万トン→10万トン)は33.7%減少で、主に輸入量が減少した品目は、米国は大豆(▽43.0%)、トウモロコシ(▽28.5%)、中国は麦(▽87.9%)、キムチ(▽8.4%)、日本はビール(▽86.0%)、活ホヤ(▽37.3%)等だった。大豆、トウモロコシ、麦は生産国の価格競争力低下で輸入量が減少、中国のキムチと日本の活ホヤ、ビールは、COVID-19にともなう内需不振が原因と確認された。

昨年の輸入食品全体の不適合率は0.14%(75万993件中1,082件不適合)で、'19年(不適合率0.18%)対比0.04%減少したが、これは不適合率が高かった輸入品申告件数が減り、輸入者が事前検査後適合した製品だけ輸入申告する「事前検査命令制」対象拡大が、主な原因と分析された。また、「危害度基盤予測システム」を活用して、不適合発生の可能性が高い製品中心に集中検査をした結果、'20年度無作為標本検査の不適合率が0.42%(3万7,416件中159件不適合)で、'19年(不適合率0.38%)対比0.05%増加した。

\* '19年全体輸入申告73万8,082件、不適合1,295件(不適合率0.18%)

\* '19年無作為標本検査3万8,900件、不適合147件(不適合率0.38%)

\* 最初輸入件数/不適合率：'19年(4万4,452件/1.90%)→'20年(4万2,758件/1.60%)

\* '20年検査命令対象検査件数/不適合件数：1,718件/3.08%(輸入申告遮断)

全体輸入国166ヶ国中65ヶ国と全体輸入品目1,859個中211個の品目が不適合判定を受けたが、国別に中国が358件(不適合率0.16%)で最も多く、米国(105件、0.11%)、ベトナム(85件、0.27%)、イタリア(57件、0.16%)、インド(43件、0.67%)順であった。品目別には菓子が55件で最も多く、ポリプロピレン(53件)、果・菜加工品(42件)、キャンディ類(39件)、その他水産物加工品(38件)順であった。不適合理由では、基準・規格(含有量、酸化など)違反が最も多く、食品添加物使用基準(保存料、色素など)違反、微生物(細菌数、大腸菌など)基準違反の順であった。

\* 検査の結果不適合判定された製品は、輸出国に返送、他の国での搬出または廃棄措置などを行うこと

## 11. 即席製造食品、自動販売機による販売試験可能

食品安全政策科課 2021-03-11

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45132](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45132)

食品医薬品安全処は、無線認識(RFID\*)技術が適用された自動販売機で、即席販売製造・

加工業者が生産したサラダ、サンドイッチなどの販売を許可する規制実証特例事業を実施する。

\* RFID(Radio Frequency Identification) : 半導体チップが内蔵されたタグ(Tag)等に保存されたデータを、無線周波数を利用して非接触で読みだす認識システム

今回、許可される事業は、(株) grandmarchan が申請した事業で、3月11日に開いた規制特例審議委員会(産業通商資源部主管)で審議・議決され、今後2年間規制特例が適用される。即席販売製造・加工食品は、営業所で直接消費者に販売することを目的に生産・管理されるもので、賞味期限設定・自主品質検査などの安全規制が免除又は緩和されており、営業所以外での流通・販売が禁止されている、しかし、今回の規制特例で、事業者が即席販売製造・加工業者からサラダ、サンドイッチなどを供給されて、これを共有オフィスなどに設置された自動販売機\*を利用して消費者に販売することができるようになる。

\* 無線認識(RFID)技術を通じて、自動販売機陳列食品の賞味期限経過の有無、温度センサーを通じた適正温度維持の有無などを遠隔で管理が可能

ただし、自動販売機で販売される食品の安全性確保のために、賞味期限設定、自主品質検査の強化など食品製造・加工業者食品に準ずる衛生管理を実施するようにして、衛生管理責任者を指定するようにする一方、管轄地方自治体とともに現場指導も強化する予定である。

## 12. 金属性異物検出「食肉含有加工品」回収措置

食品管理総括課 2021-03-16

[https://www.mfds.go.kr/brd/m\\_99/view.do?seq=45145](https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=45145)

食品医薬品安全処は、食品製造・加工メーカー未来総合食品が製造・販売した「筋」(食肉含有加工品)製品から、3×2.5 mm の大きさの金属性異物(切断機破損破片)が検出され、該当製品を販売中断及び回収措置した。調査の結果、筋を切る過程で切断機が破損して、製品に混入されたことが確認された。

\* 製造工程：原料入庫→洗浄→加熱→切断→調味料(ヤンニョム)混合→包装/出庫

---

● シンガポール食品庁(SFA : Singapore Food Agency) <https://www.sfa.gov.sg/>

### 1. 環境、水及び食品の統合された情報とサービスを提供する新たな myENV モバイル用アプリケーションが開始される

Launch of new myENV mobile app to provide integrated information and services for the environment, water and food

31 March 2021

<https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/launch-of-new-myenv>

[nv-mobile-app-to-provide-integrated-information-and-services-for-the-environment-water-and-food.pdf](#)

シンガポール環境庁、水資源庁、食品庁は、新たな myENV アプリケーションの開始を共同声明で発表する。

環境情報統合ダッシュボード、自宅やオフィスなどの個人にとって重要な場所で発生している環境問題、アプリを開かずに情報にアクセスできるウィジェット、食品のリコールや食品店の営業停止と格付け引き下げなどのプッシュ通知、等の機能をもつ。

---

● シンガポール保健科学庁 (HSA : Health Science Authority)

<https://www.hsa.gov.sg/>

1. 禁止物質シブトラミンを含む 4 製品が見つかった ; 1 人が有害影響を受けた

Four Products Found to Contain Banned Substance Sibutramine; One Consumer Had Adverse Effects

Published: 25 Mar 2021

<https://www.hsa.gov.sg/announcements/press-release/four-products-sibutramine-25mar>

保健科学庁(HSA)は減量製品としてオンラインで販売されている、下記の 4 製品について購入や摂取をしないよう警告している。これらには深刻な悪影響を起す可能性のある禁止物質シブトラミンが含まれていることが明らかになった。

「Flash Slim」

「Leedee Botanical Beverage Mix Pineapple Juice Powder with African Mango」

「Quinn S Amyera」

「Schocolite Double Chocolate Cookies Drink with Hoodia Gordinii Extract and L-Carnitine」

これらの製品は国内の電子取引やソーシャルメディアプラットフォームで販売されていた。HSA はプラットフォーム管理者と影響を受けたリストをすぐに削除し、それぞれの販売業者に警告を発した。

有害影響と消費者からの報告

「Flash Slim」を摂取した 1 人の男性消費者が、摂取後に体重は減少したが、動悸、吐き気、不眠症、多汗などの深刻な悪影響も受けた。

大きさに強調表示されていたため、強力な成分が含まれている可能性があると思った一般人から他の 3 製品についての意見を受けた。これらの減量製品は「脂肪を素早く燃やす」「7~14 日で結果を出す」「代謝を高める」として販売されていた。

これら 4 製品すべてにシブトラミンが検出された。シブトラミンはシンガポールでは処方箋が必要な減量薬だったが、心臓発作や脳卒中のリスクが増すため 2010 年以降禁止され

ている。シブトラミン入りの粗悪品に関する過去の重大な有害影響は不眠症や幻覚だった。2019年には1人の消費者が非常に速い心拍数になり意識不明になった。彼女は意識を取り戻し、心臓の機能を助ける除細動器(医療機器)の移植を必要とする状態になった。

#### 消費者への助言

- ▶ 気分が悪くなる、あるいは健康に懸念がある場合は、すぐにこれらの製品の摂取をやめ、医師に相談すること。
- ▶ 運動や体重管理のいらぬすばやい減量のあげさな主張や、予想外に速く効果を出す製品に注意すること。それらには健康に深刻な害を及ぼしかねない強力な成分が含まれる可能性がある。
- ▶ オンラインや仲のいい友達からそのような製品を買う時は注意すること。どこでどのようにこれらの製品が作られたのか確信が持てない。
- ▶ 体重を減らすための迅速で簡単な方法はない。体重管理はバランスのとれた食事と適切な運動を組み合わせることで達成されるべきである。体重を管理するのに助けが必要なら、医師、栄養士、医療従事者に相談すること。

#### 販売業者と供給業者への助言

販売業者と供給業者はこれらの製品の販売をすぐやめなければならない。HSAは禁止物質や強力な薬効成分入りの粗悪品だとわかった製品を販売、供給する人に対して厳しい執行措置を執ることを躊躇しない。販売者と供給者は起訴される責任があり、有罪判決を受けると、最大2年の懲役およびまたは最大1万ドルの罰金が科せられる。

---

#### ● その他

#### 食品安全関係情報（食品安全委員会）から

(食品安全情報では取り上げていない、食品安全関係情報に記載されている情報をお知らせします。)

- 台湾衛生福利部食品薬物管理署、輸入食品の検査で不合格となった食品等(2021年2月分)を公表
- 台湾衛生福利部食品薬物管理署、輸入食品の検査で不合格となった食品等(2021年3月分)を公表

#### ProMED-mail

- ボツリヌス症—カナダ：(ケベック) セイウチの肉、リスク、警告

Botulism - Canada: (QC) walrus meat, risk, alert

2021-03-31

<https://promedmail.org/promed-post/?id=8281039>

Date: Tue 30 Mar 2021 Source: Nunatsiaq News [abridged, edited]

Inukjuak の 27 人以上が地域で最近行われた 2 回の宴会で提供された汚染セイウチ肉を食べてボツリヌスに暴露された可能性がある。Nunavik 地域保健委員会が 2021 年 3 月 27 日土曜日にフェイスブックのページで「まだ地域に汚染肉がある可能性がある。このような状況では由来の同じ全ての肉を破棄するべきである」と発表した。

(イヌイットの居住地)

- 有毒物質流出—米国：(フロリダ) リン石こう、避難

Toxic spill - USA: (FL) phosphogypsum, evacuations

2021-04-04

<https://promedmail.org/promed-post/?id=8288425>

Date: 4 Apr 2021 Source: BBC [edited]

フロリダで有害廃棄物の大きな池から Tampa 湾への流出があり緊急事態が宣言された。地域の 300 軒以上の家が避難を命令され、Piney Point 貯水池近くの道路が閉鎖された。当局によるとこの 31 ヘクタールの貯水池には古いリン工場由来のリン酸と窒素を含む数百万ガロンの水が溜められていた。漏れが見つかった池には、肥料製造放射性廃棄物であるリン石こうが貯まっていた。水には微量の天然ラジウムとウランが含まれ、堆積物からはラドンガスが放出されている可能性がある。2021 年 4 月 2 日に漏れを石などで塞ごうとしたが失敗した。フロリダ州政府は 4 月 3 日に緊急事態を宣言した。Scott Hopes は記者会見で水が周辺地域に溢れる懸念があると語った。ほとんどが農地である

### EurekAlert

- 藻類の膜から毒素が空气中に放出されていることを研究が発見

Study finds airborne release of toxin from algal scum

2-APR-2021

[https://www.eurekalert.org/pub\\_releases/2021-04/tfg-ndt032921.php](https://www.eurekalert.org/pub_releases/2021-04/tfg-ndt032921.php)

Lake and Reservoir Management に発表。2019 年 7 月から 10 月の間、マサチューセッツの Nantucket 島の Capaum 池の周辺の空気を定期的を集めて分析した。池の水からアノトキシンを検出したが空気検体からも検出した。それは 9 月の霧の出た日で、夜の間風が強かった。おそらくアノトキシンが水面から吹き上げられ霧で守られたのだろう。

以上

---

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室